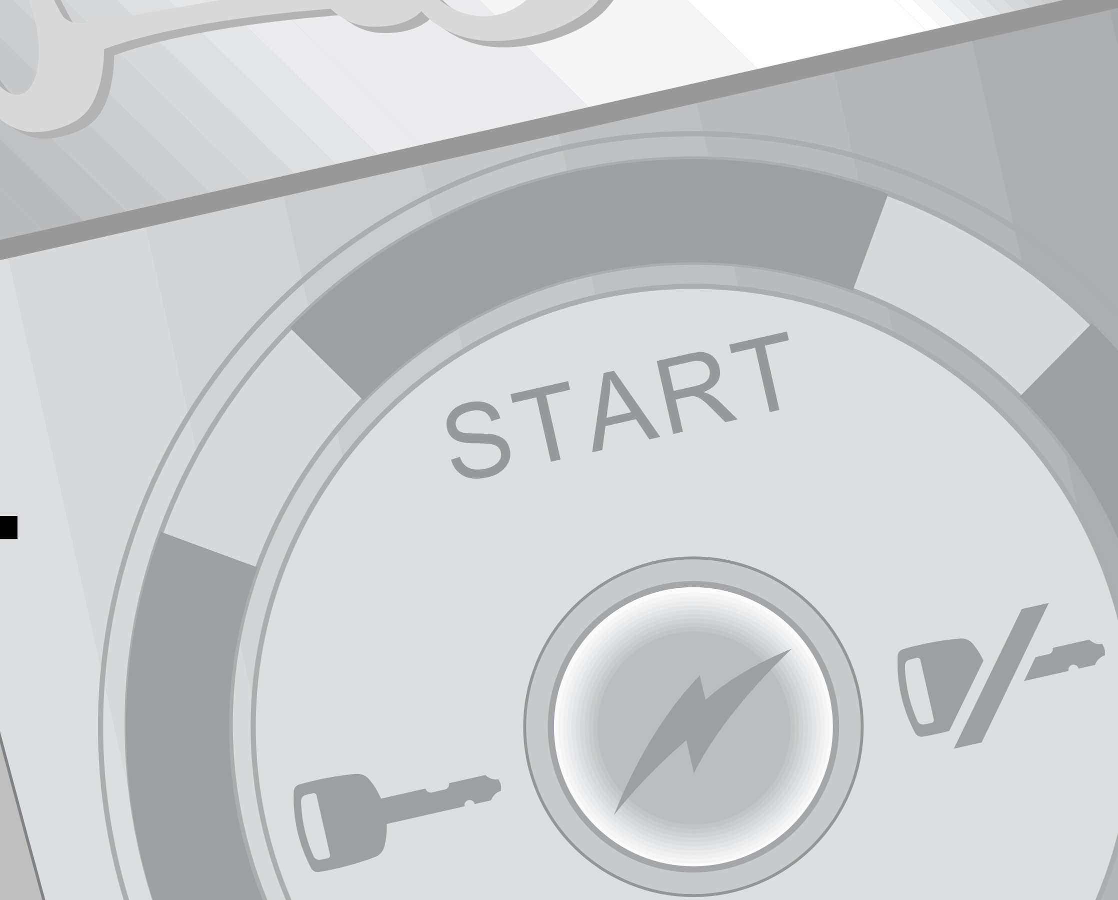
CARMATE
No.0673-9581A

リモコンエンジンスターター

TE-W3000

〈取扱説明書・保証書〉



目　次

ページ

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

TE-W3000の特長 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

警告・注意事項（必ずお読みください） ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

内容物・各部の名称 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

リモコン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
メインユニット・アンテナユニット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
その他付属品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

使いかたの基本 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

リモコンでエンジンをかける ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
リモコンでエンジンを止める ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
セキュリティをONにする（ドアをロックする） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
セキュリティをOFFにする（ドアをアンロックする） ・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
車両状態のチェックをする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
リモコンのボタン操作を無効にする（キー操作ロック機能）・・・・・・・・・ 20
ターボタイマーを使用する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
センサー反応時の動作について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
強制的にサイレンを鳴らす（パニックアラーム） ・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
セキュリティを強制解除する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

セキュリティ機能の設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

セキュリティレベルを切り替える ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
ショックセンサーの感度を調整する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
傾斜センサーの感度を調整する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
イグニッションONセンサーの設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
チャープ音（セキュリティON・OFF時のサイレン音）の設定 ・・・・・・・・ 33

ページ

エンジンスターター関連の設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
エンジンスターターのセルモーター回転時間を設定する ・・・・・・・・ 36
エンジンスターターの自動停止時間を設定する ・・・・・・・・ 37
ターボタイマー機能の設定 ・・・・・・・・ 38
サイドブレーキ検出の設定 ・・・・・・・・・・・ 40
P/N検出・フットブレーキ検出の設定 ・・・・・・・・・・・ 41
ホンダABS装着車に取付ける場合の設定 ・・・・・・・・・・・ 42
L端子配線を行なう場合の設定 ・・・・・・・・・・・ 43
スターターカット(乗り逃げ防止)機能のON/OFF設定 ・・・・・・・・・・・ 44
OP端子出力の設定 ・・・・・・・・・・・ 45
グロータイムの設定 ・・・・・・・・・・・ 46
P/N検出時のST1/ST2切替 ・・・・・・・・・・・ 47
P/N検出データの設定 ・・・・・・・・・・・ 48

取付け後のメンテナンスなど ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
リモコンIDの登録・通信周波数切替の方法 ・・・・・・・・・・・ 50
リモコンの電池交換について ・・・・・・・・・・・ 51
エンジンスターター機能が作動しない場合 ・・・・・・・・・・・ 52
故障かな?と思ったら ・・・・・・・・・・・ 56

仕　様 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62

保証書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63

はじめに

このたびは、リモコンエンジンスターターTE-W3000をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

この取扱説明書は、リモコンエンジンスターターTE-W3000（以下本品という）をご使用頂くためのガイドブックです。
この製品は、一定の安全条件を満たしている場合に、遠隔操作により車のエンジンをスタートさせる（ドアロック/アンロックさせる）とともにターボ車のタービントラブルを未然に防ぐため、アフターアイドリングを行なう装置です。また、増加する車両盗難や車上荒らしから愛車を守るカーセキュリティ機能を内蔵しています。
この製品を正しく安全にご使用頂くために、この取扱説明書をよくお読みになり、内容を理解された上で実際にご使用ください。この取扱説明書はお読みになった後も、車検証入れなどすぐに取出せる場所に保管し、ご使用中にわからないことや具合の悪いことがおきたとき、お役立てください。
また、本品を譲られる場合は、次に使用される方に本書も併せてお渡しください。尚、誤った取付、使用による事故、破損などの責任は一切負いかねます。

※本品使用中に、万一取付車に盗難等の被害が発生しても、当社補償は一切ありません。

注意事項の定義

この取扱説明書の注意事項は、そのレベル、内容ごとにマークを設けています。
各々の定義（意味）を充分に理解された上で、お取扱いください。

⚠危険	重大事故が起こる状況のもの
⚠警告	人体に対し、危険が生じる恐れのあるもの
⚠注意	物品を破損、故障させる恐れのあるもの
⚠禁止	法律に違反する恐れのあるもの
参考	取付け、取扱において知っていると有益な情報

TE-W3000の特長

■多彩なアンサーバック機能（→P18・P19）

エンジン情報・ドアロック状態（※）・アイドリング残時間・車内温度・車両バッテリー電圧・セキュリティ作動履歴をリモコンの液晶画面にデジタル表示します。
（※）ドアロック状態のアンサーバックは本品のリモコンで行なったドアロック及びドアアンロックの操作のみが反映されるものです。

■セキュリティ機能

高性能センサー（微衝撃・高衝撃・ドア・傾斜・イグニッション）を標準装備。車両盗難や車上荒らしから愛車を守ります。センサーの感度調整や作動履歴の確認はリモコンでできる本格派です。

■抜群の操作性

リモコンは1操作を1つのボタンで行なうため、面倒な2度押しなどの必要がありません。さらに、アンテナを伸ばさなくても操作OK。ストレスを感じない快適な操作性を実現しました。

■ドアロック機能（→P16・P17）

本品のリモコンで遠距離からでもドアロック（アンロック）が可能なため非常に便利です。また、別売の「ハザードフラッシュリレー2」（TE418）を組み合わせる事によりハザード連動も可能です。
（※）ドアロック機能は別途アダプターが必要な場合や、車種によってはご使用いただくことができない場合があります。詳しくは店頭の車種別ハーネス適合表をご覧ください。

■車速ドアロック機能（オプション）

別売の車速連動ドアロックコード（TE419）を接続することで、車速連動ドアロック機能が使用できます。（TE410との併用は不可）
（※）車種により適合の可・不可があります。詳しくは店頭の車種別ハーネス適合表をご覧ください。

■快適な通信性能

電波到達距離3200m（市街地最大700m）を実現したことで、遠距離からのエンジン始動がより確実に行なえます。また、通信が成立しなかった場合は自動的に再送信を試みるため、通信エラーが減少しました。
（※）電波到達距離は、見通しの良い場所（平地）での当社実験にて記録した飛距離です。電波到達距離は、周囲の環境や使用状況により異なりますのでご了承ください。

■スターターカット機能（→P44）

本品のリモコンでドアロック操作を行なう事により、キーによるエンジン始動ができなくなるため、車両盗難（乗逃げ）の防止に絶大な効果があります。
（※）スターターカット機能はドアロック配線を行なっていない場合でも使用できます。また本機能を使用するには、スターターカット機能の設定（→P44）を行なう必要があります。

■誤操作防止機能（→P20）

カバンやポケットの中での思わぬ誤操作を防ぐため、リモコンにキー操作ロック機能を装備しました。

■フルオートターボタイマー機能（→P21）

ターボ車のアフターアイドリングを行なうためのターボタイマー機能を搭載しました。アフターアイドリングの時間は、走行時間に応じて自動的に変化します。

■自動停止機能（→P37）

本品によるエンジン始動後一定の時間が経過すると自動的にエンジンが停止します。

■リトライ機能

一度の始動動作でエンジンが掛からない場合でも、自動的にセルモーターの回転時間を延長しながら合計3回まで再始動を試みますので厳冬期でも安心です（最長セルモーター回転時間=約4.0秒）。

■アイドリング延長機能（→P14）

本品でのエンジン始動中に再度STARTボタンを押すことにより、アイドリング残時間が始動時と同じ時間に戻ります。

■防犯LED機能

アンテナユニット内蔵の赤色LEDが点滅することで、車上狙いなどの犯罪者を心理的に威嚇し、防犯効果を発揮します。

■スリープモード（→P54）

バッテリーの負担を軽減させるために、約2週間エンジンの始動を行なわなかった場合に防犯LEDおよびエンジンスターターの機能を自動的に停止します。

■スペアリモコン対応＜別売＞（→P50）

標準装備のリモコンを紛失した場合、別売のスペアリモコンが使用可能です。（使用できるリモコンは1ヶのみ）

■純正イモビライザー装着車対応

純正イモビライザー装着車でもエンジンスターターがお使いいただけるよう、別売のアダプターを用意しました。
（※）車種により適合の可・不可があります。詳しくは店頭の車種別ハーネス適合表をご覧ください。

■盗難保険（最高25万円）対象商品

本品をご購入された方に限り、有償にて盗難保険にご加入いただけます。万一、車載物（カーナビ、オーディオ、カーテレビなど）が盗難にあった場合、最高25万円が保険により補償されます。（別途契約が必要です）

■電波法適合品

本品の特定小電力無線は日本国内の電波法に適合していますので安心してお使い頂くことができます。

■保安基準（VAS基準）適合品

本品は国土交通省が制定した新保安基準適合品であり、全国自動車用品工業会盗難発生警報装置自主基準（VAS）登録品です。

■寒冷地推奨品

本品のメインユニットは−20℃でも動作可能なため、厳冬期でも安定した動作を実現します。

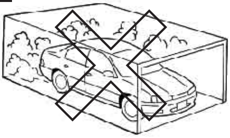
■安心の日本製で、信頼の3年保証

TE-W3000は日本製。徹底した品質管理により、信頼の3年保証（リモコンは1年）を実現しました。

警告・注意事項（必ずお読みください）

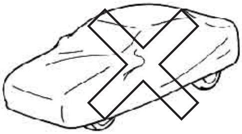
警告事項

⚠警告



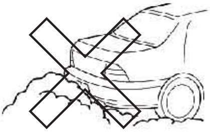
換気の良くない場所（ガレージ・立体駐車場・地下駐車場）で
使用しないでください。
排気ガスが充満して大変危険です。

⚠警告



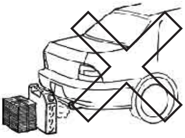
車にボディカバーを掛けたままで使用しないでください。
火災の恐れがあります。

⚠警告



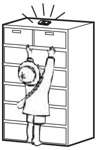
マフラーが雪で埋もれた状態で使用しないでください。
排気ガスが車内に充満する恐れがあります。
また配線の損傷による車両火災の原因にもなりますので
大変危険です。

⚠警告



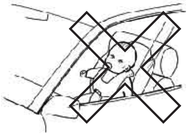
車の近くに燃えやすいものがないことを確認してから、
ご使用ください。
火災の恐れがあります。

⚠警告



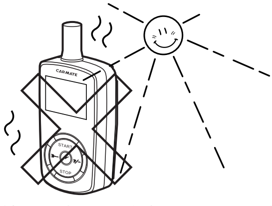
リモコンは、お子様の手が届かない場所に保管してください。
誤操作による事故の恐れがあります。

⚠警告



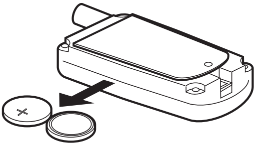
お子様やペットなどを車内に残したままで、使用しないでください。
事故の恐れがあります。

⚠警告



リモコンは、直射日光の当たる場所・車内・暖房器具の近く等、
高温になる場所で、保管または使用しないでください。
リモコンが高温になりやけどや故障の原因となります。
特に、車のダッシュボード上は非常に高温となりますので、絶対に
放置しないでください。

⚠警告



車を他人に預ける時（整備に出す等）は、リモコンの電池を
抜いておいてください。
誤操作による事故の恐れがあります。

⚠警告

運転中に本品の操作をしないでください。
事故の原因になります。

⚠警告

ターボタイマー機能を使用する際は、必ずセレクトレバーが「P」
の位置でキーを抜いてください。また、カウントダウン中にキ
ーを抜いたままセレクトレバーを動かすことができる車両は、
ターボタイマー機能を使用しないでください。
事故の原因になります。

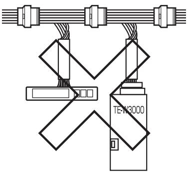
⚠警告

サイレンを作動させる場合は、離れて作動させてください。
聴覚障害の原因となります。

警告・注意事項（必ずお読みください）

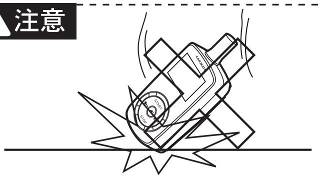
注意事項

⚠注意



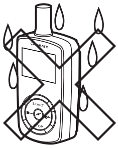
ターボタイマー（スターター）や盗難警報機類との
併用取付けはしないでください。
誤作動の原因となります。

⚠注意



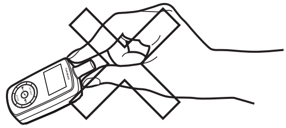
リモコンを床に落としたり硬いものにぶつけたりしないでください。
故障の原因となり、リモコンでの操作ができなくなる場合が
あります。

⚠注意



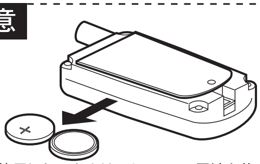
リモコンは直接水のかかる場所や湿気の多い場所で、保管
または使用しないでください。
故障の原因となり、リモコンでの操作ができなくなる場合が
あります。

⚠注意



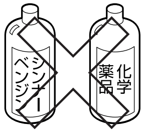
リモコンのアンテナに強い力がかかるような持ち方をしないで
ください。破損の原因となります。

⚠注意



長時間使用しないときは、リモコンの電池を抜いておいて
ください。
故障の原因となります。

⚠注意



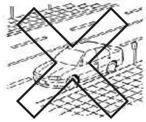
製品が汚れた場合は、薄めた中性洗剤をしみ込ませた布をよく
絞ってから拭き、乾いた布でもう一度拭いてください。
ベンジン、シンナー等の化学薬品は、絶対に使用しないで
ください。 変形・変色や故障の原因となります。

⚠注意

サイレン部分の穴をふさがないでください。
穴をふさぐと故障の原因となります。

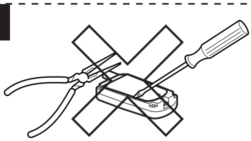
禁止事項

⚠禁止



エンジンスターター機能およびターボタイマー機能は 安全な
場所でご使用ください。道路で使用すると違法となりますので、
絶対に使用しないでください。

⚠禁止



この製品は、特定小電力無線設備の技術基準適合証明・認証
を受けております。分解したり、改造することは、法律で禁じ
られておりますので、絶対にしないでください。

⚠禁止

製品に貼付の技術適合証明ラベルをはがしたり、ラベルのない
ものを使用することは、法律で禁じられておりますので、絶対に
しないでください

⚠禁止

この製品は、日本国内の電波法に適合しています。国外での使用は、
違法となる場合がありますので、おやめください。

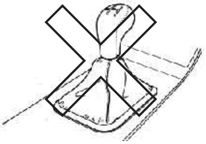
⚠CAUTION This product is for use only in Japan.

⚠禁止

一部地域では、暖機運転以外の目的で使用すると条例違反となります。

警告・注意事項（必ずお読みください）

禁止事項

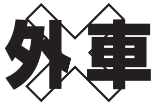


●マニュアル車には、取付できません。

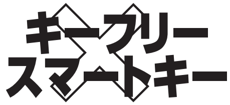
⚠危険

マニュアル車へ取付けることは、絶対にしないでください。マニュアル車は、冬季にパーキングブレーキの凍結を防ぐため、パーキングブレーキを掛けずにギアを「ロー」もしくは「バック」に入れ駐車する場合があります。また、坂道などに駐車する際にもギアを「ロー」もしくは「バック」に入れます。
その状態でエンジンスターターを使用すると、無人走行の原因となり、思わぬ大事故につながります。

●12V車専用です。トラックなどの24V車には、お取付けできません。



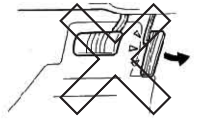
●外車には、取付できません。



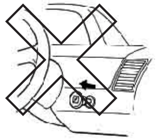
●キーフリーシステム・スマートキーシステム装着車には、取付できません（適合車種除く）。

●89年以前の車でシフトロックが装着されていない車（フットブレーキを踏まずにセレクトレバーが「P」から移動できる車）には、取付けできません。

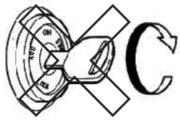
●エンジン始動時に下記のような場合には、お取付けできません。



［アクセル操作が必要な車］



［チョークレバーを引く車］



［年間通じて、キーを回して2秒程度でエンジンのかからない車］

●ホンダ車の雨滴感応ワイパー装備車には、お取付けできません。
取付けすると車両故障の原因となります。

参考事項

参考 電波到達距離は、周囲の環境や使用状況により異なります。車と送信場所との間に建造物等がある場合には、電波到達距離が短くなります。

参考 ほとんどの純正キーレスエントリー装着車は、車両の仕様上、エンジン始動中に純正キーレスエントリーが作動しないようになっています。このような車両の場合、エンジンスターター機能でのエンジン始動中は本品のドアロック/アンロック機能を使用するか、キーでドアを開ける必要がありますのでご了承ください。

参考 まれに、本品と純正のキーレスエントリーの電波が干渉し、キーレスエントリーの作動距離が極端に短くなる場合があります。その場合は、通信周波数の切替（→P50）をお試しください。

参考 本品のリモコンは、低温になる場所に置いておくと一時的に電池電圧が低下して液晶やバックライトの表示が薄くなる場合がありますが、常温になれば元に戻ります。

参考 本品のそばで大出力の無線機等を使用すると、無線機の発する電磁波により、誤作動や未作動の原因となる場合があります。

参考 本品の2段階ショックセンサーは、車体に与えられた衝撃をセンサーが感知しますが、車両の違いや取付状態の違いにより、感知する衝撃は変化します。取付後に必ず感度調整を行なってください。

参考 リモコンをTV、パソコンなどの近くで使用するとノイズの影響により通信距離が短くなる場合があります。その場合はノイズ発生源から離してお使いください。

参考 オートライトコントロール装着車は、ライトスイッチがAUTOの位置で本品を作動させると、オートライト機能が正常に作動しない場合があります。ライトスイッチは必ずOFFの位置にしてご使用ください。

参考 オートチルトおよびマイコンプリセットステアリング装着車は、本品でエンジン始動した状態でイグニッションキーを差込んでもオートチルトおよびマイコンプリセットが作動しなくなりますので、キーでエンジンを再始動してください。

内容物・各部の名称

ページ

リモコン ････････････････････････････ 10

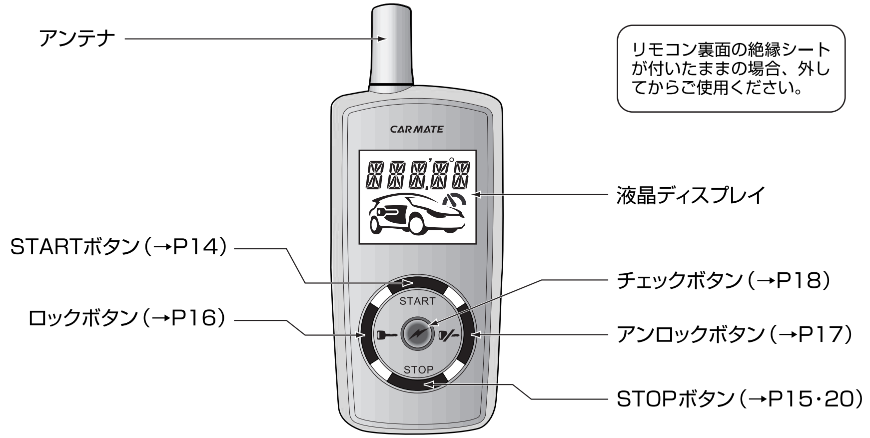
メインユニット・アンテナユニット ････････････････････････････ 11

その他付属品 ････････････････････････････ 12

内容物・各部の名称 ①

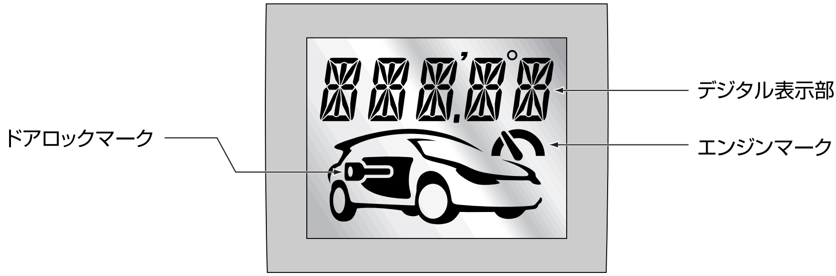
リモコン　（1ヶ）

参考　本品はリモコンを垂直に立てた状態で操作することで最も通信距離が長くなるように設計されています。
また、アンテナ部に触れた状態で操作すると著しく通信距離を縮めますのでご注意ください。



リモコン裏面の絶縁シートが付いたままの場合、外してからご使用ください。

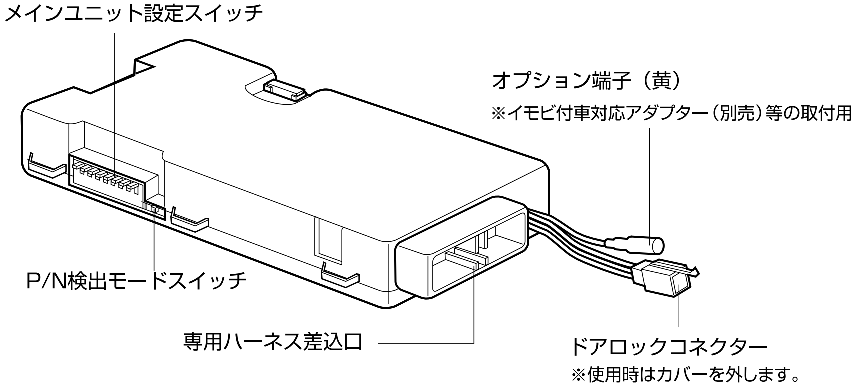
リモコン（液晶ディスプレイ）



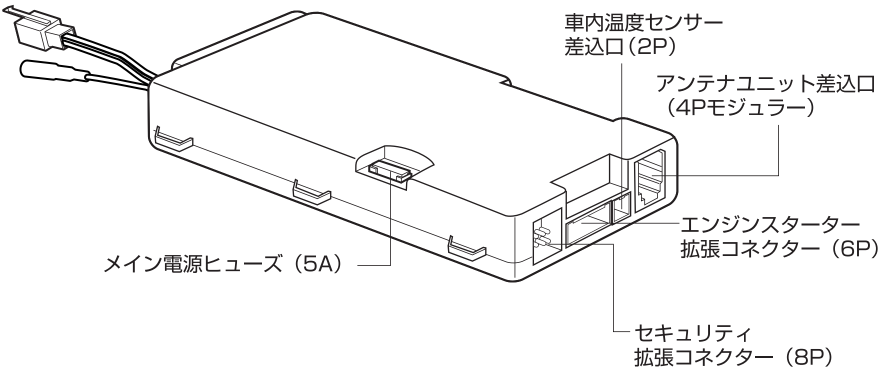
内容物・各部の名称 ②

メインユニット　（1ヶ）

▼専用ハーネス側

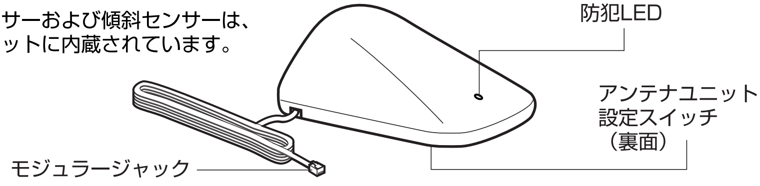


▼アンテナユニット側



アンテナユニット　（1ヶ）

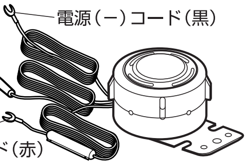
ショックセンサーおよび傾斜センサーは、
アンテナユニットに内蔵されています。



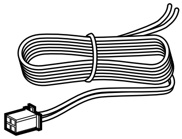
内容物・各部の名称 ③

その他付属品

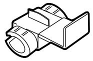
●8音色サイレン … 1ヶ



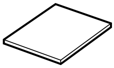
●ドアロックコード … 1ヶ



●ワンタッチコネクター … 13ヶ
ドアロックコードなどの配線に使用します。

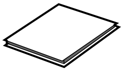


●両面テープ … 2枚
サイレンおよびアンテナユニットの取付けに使用します。



●面ファスナー … 1セット

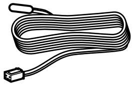
アンテナユニットの取付けに使用します。



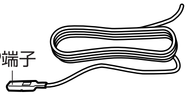
●危険シール … 1枚
エンジンルーム内の目立つ場所に貼付けます。

●防犯ステッカー … 1枚
後部座席の窓に貼り付けます。

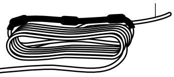
●車内温度センサー … 1ヶ



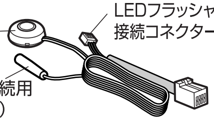
●ドア検出コード … 1ヶ



●ドア配線分岐コード … 5ヶ

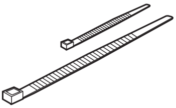


●セキュリティ拡張コード … 1ヶ



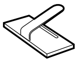
●結束バンド …小 5本
大 1本

配線の結束やメインユニットの固定などに使用します。



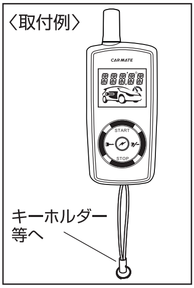
●車内温度センサー固定金具… 4ヶ

車内温度センサーを車内に固定する際に使用します。



●ストラップ … 1ヶ

リモコンをキーホルダーなどに付ける際に使用します。



●かんたん操作ガイド … 1枚

使いかたの基本

この項では、本品の基本的な使いかたについて解説しています。

ページ

リモコンでエンジンをかける ････････････････････････････ 14

リモコンでエンジンを止める ････････････････････････････ 15

セキュリティをONにする（ドアをロックする） ････････････････････ 16

セキュリティをOFFにする（ドアをアンロックする） ･･････････････ 17

車両状態のチェックをする ････････････････････････････ 18

リモコンのボタン操作を無効にする（キー操作ロック機能）･････････ 20

ターボタイマーを使用する ････････････････････････････ 21

センサー反応時の動作について ････････････････････････････ 22

強制的にサイレンを鳴らす（パニックアラーム）････････････････ 24

セキュリティを強制解除する ･･････････････････････････････25

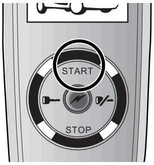
リモコンでエンジンをかける

この機能を使用する前に

必ずP6～P8の警告事項および注意事項をお読みになった上でご使用ください。

参考
・純正キーレスエントリー装着車の場合、車両側の構造上、エンジンスターター始動中は純正キーレスエントリーの操作を受け付けない場合があります。（本品のドアロック機能は働きます。）
・リモコンでエンジンを掛けたのち実際に走行するには、キーを差し込んでイグニッションをONにする必要があります。（一部の車種を除き、一旦エンジンを止めてキーで掛け直す必要はありません。）

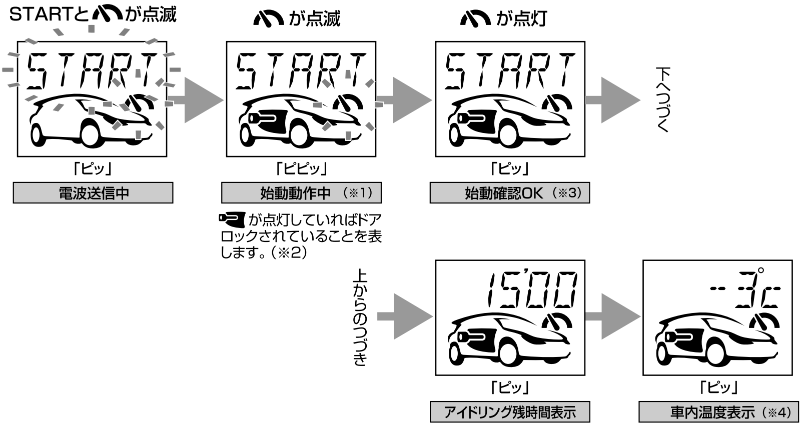
操作方法



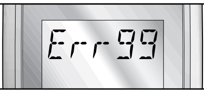
1 リモコンの「START」ボタンを「カチッ」と押します。

参考 ポケットの中などでの誤操作を防止するため、短時間（0.2秒未満）のボタン操作は受付けません。

2 以下のような表示が行なわれます（表示の切り替え毎にバックライトが点灯します）。



右図のようなエラー表示（Err 99 など）が出る場合は
P53～P55のエラー表示一覧をご確認ください。



（※1）エンジンが掛かったかどうかメインユニットが判断するまでこの表示が続きます。また、すでに本品によるエンジン始動が行なわれている場合は、この表示は行ないません。
（※2）ドアロックの制御には別途配線が必要です。また、ドアロック状態のアンサーバックは本品のリモコンで行なったドアロックの状態が反映されるものですので、純正キー（純正キーレス）などでドアのロック/アンロックを行なっても表示には反映されません。
（※3）30秒以内にリモコンがエンジン始動確認OKの信号を受信できなかった場合は、これ以降の表示を行ないません。
（※4）車内温度表示は、取付場所によって実際の車室内の温度とは異なる場合があります。

参考 エンジンスターターによるエンジン始動中はアンテナユニットのブザーが約1秒おきに「ピッピッ……」と鳴りつづけます。

これで車両のエンジンが正常にスタートしました。

正常に操作できているにもかかわらず、エンジンが始動しない場合は、P52～P55ページの「エンジンスターター機能が作動しない場合」をご覧ください。

アイドリング延長機能

すでに本品によりエンジンが始動している状態から本ページの操作を行なうと、再びアイドリング残時間がスタート操作時に戻ります。
※排気ガスによる大気汚染を防ぐため、不必要なアイドリングの延長は行なわないでください。

リモコンでエンジンを止める

参考
・本操作でエンジンを停止できるのは、本品によってエンジンを掛けた場合と、ターボタイマー機能によりアフターアイドリングを行なっている場合だけです。
・キーシリンダーにキーを差して「イグニッションON」(通常走行の位置)に回している場合は本操作でエンジンを止めることはできません。

操作方法

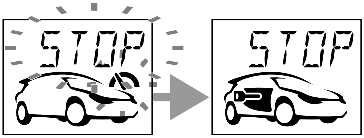
❶ リモコンの「STOP」ボタンを「カチッ」と押して離します。

参考 ポケットの中などでの誤操作を防止するため、 短時間(0.2秒未満)のボタン操作は受け付けません。

参考 3秒以上「STOP」ボタンを押し続けると、キー操作ロック機能が働き、エンジン停止操作が行なわれませんのでご注意ください(→P20)。

❷ 以下のような表示が行なわれます。

STOPと が点滅



「ピッ」
電波送信中

「ピピッ」
エンジン停止

が点灯していればドアロックされていることを表します。(※1)

右図のようなエラー表示(Err 99 など)が出る場合はP53～P55のエラー表示一覧をご確認ください。

(※1)ドアロックの制御には別途配線が必要です。また、ドアロック状態のアンサーバックは本品のリモコンで行なったドアロックの状態が反映されるものですので、純正キー(純正キーレス)などでドアのロック/アンロックを行なっても表示には反映されません。

これで車両のエンジンが正常に停止しました。

参考

正常に通信を行なう事ができない(通信不成立)場合は、以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。

●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。

これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

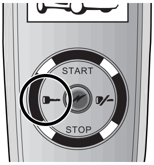
セキュリティをONにする（ドアをロックする）

参考
・ドアロック機能は、ドアロック適合車種にドアロックコードの配線を行なっている場合のみ作動します。
・スターターカット機能が「ON」の場合（→P44）、本品によるドアロック中はスターターカット機能が働くため、キーでエンジンを掛けることができません。（ドアロックの配線を行なっていない場合でもスターターカット機能は作動します。）
・セキュリティがONの時は、アンテナユニットから定期的に電波を送信しているため、カーナビゲーションやレーダー探知機などの無線通信と干渉する場合があります。走行時は必ずセキュリティをOFFにしてください。
・キーによるエンジン始動時は、リモコンによるドアロック操作ができません。

操作方法

まず、車両の全てのドアが閉じられていることを確認します。

❶ リモコンの（ロック）ボタンを「カチッ」と押して離します。

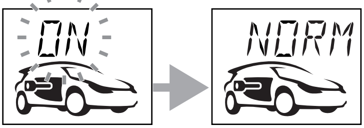


参考 ポケットの中などでの誤操作を防止するため、短時間（0.2秒未満）のボタン操作は受け付けません。

参考 3秒以上 ボタンを押し続けると、パニックアラーム機能が働きますのでご注意ください（→P24）。

❷ 以下のような表示が行なわれます。

ONと が点滅

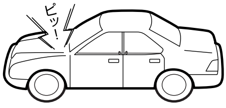


「ピッ」
電波送信中

「ピロッ」
セキュリティON（ドアロック）

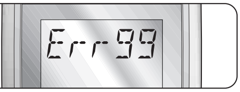
セキュリティの設定状態がアンサーバック表示されます（→P28・P29）

❸ 同時に車両側の8音色サイレンが「ピッ」と鳴り、ドアがロックされます。



8音色サイレンは各種設定状況によっては鳴らない場合があります。
また、ドアロックは、ドアロック機能に対応した車種にドアロック配線を行なっている場合のみ作動します。

右図のようなエラー表示（Err 99など）が出る場合は
P53〜P55のエラー表示一覧をご確認ください。



これでセキュリティがONになりました。

⚠注意 本品によるドアロックを行なった場合は、正常に施錠されているかどうか確認してください。

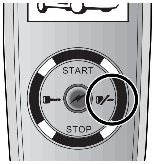
参考
正常に通信を行なう事ができない（通信不成立）場合は、以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。
●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。
これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

セキュリティをOFFにする（ドアをアンロックする）

参考
・ドアロック機能は、ドアロック適合車種にドアロックコードの配線を行なっている場合のみ作動します。
・純正キーレスエントリーにドアの自動再ロック機能がついている車種の場合、本品のリモコンでドアアンロック操作を行なっても自動再ロック機能が働かないことがありますので、ご注意ください。

操作方法

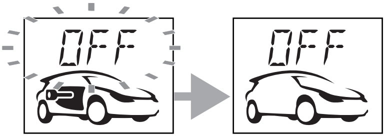
1 リモコンの（アンロック）ボタンを「カチッ」と押して離します。



参考 ポケットの中などでの誤操作を防止するため、 短時間（0.2秒未満）のボタン操作は受け付けません。

2 以下のような表示が行なわれます。

OFFと が点滅

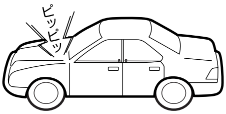


「ピッ」 電波送信中

「ピロッ」 ドアアンロック

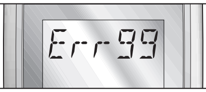
が点灯していれば本品によるアイドリングが行なわれている事を表します。

3 同時に車両側の8音色サイレンが「ピッピッ」と鳴り、ドアがアンロックされます。



8音色サイレンは各種設定状況によっては鳴らない場合があります。
また、セキュリティ作動中に警報があった場合は、車両側の8音色サイレンが「ピッピッピッピッ」と4回鳴って、警報があった事を知らせます（警報メモリー機能）。また、ドアのアンロックは、ドアロック機能に対応した車種にドアロック配線を行なっている場合のみ作動します。

右図のようなエラー表示（Err 99など）が出る場合はP53～P55のエラー表示一覧をご確認ください。



これでセキュリティがOFFになりました。

参考

正常に通信を行なう事ができない（通信不成立）場合は、以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。

- ●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
- ●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
- ●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。

これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

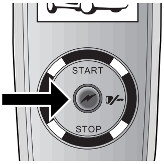
使いかたの基本

車両状態のチェックをする ①

解説　本品のリモコンを使用して様々な車両状態がチェックできます。

操作方法

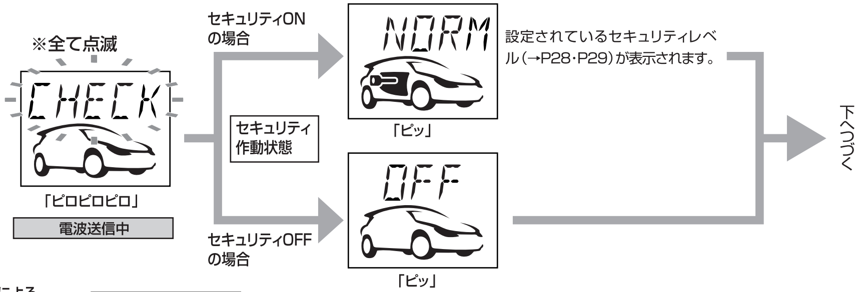
❶ リモコンの（チェック）ボタンを「カチッ」と押して離します。

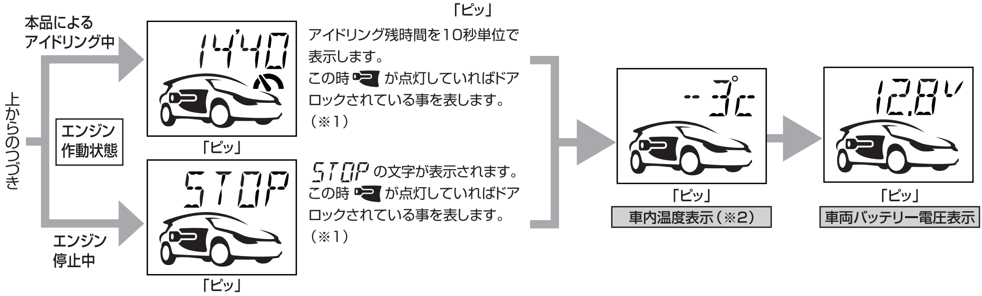


参考　ポケットの中などでの誤操作を防止するため、短時間（0.2秒未満）のボタン操作は受け付けません。
3秒以上 ボタンを押し続けると、各種機能の設定モードになりますのでご注意ください。その場合は、そのまま何もせずに10秒以上待つか、 ボタンを「カチッ」と押して離す事で元の状態に戻ります。

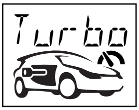
❷ 以下のような表示が行なわれます。　※キーによる走行中は、エンジン作動状態の表示を行ないません。

本体にセキュリティの反応履歴が無い場合

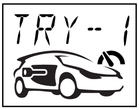




エンジン作動状態には上記以外にも次のような表示があります。



ターボタイマーが作動中です。



エンジン始動を試みています。
※ TRY の後の数字（1～3）はエンジン始動試行回数です。

右図のようなエラー表示（ Err99 など）が出る場合はP53～P55のエラー表示一覧をご確認ください。

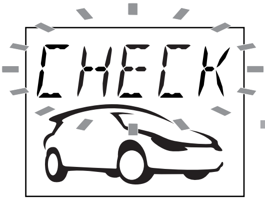
（※1）ドアロックの制御には、別途配線が必要です。また、ドアロック状態のアンサーバックは本品のリモコンで行なったドアロックの状態が反映されるものですので、純正キー（純正キーレス）などでドアのロック/アンロックを行なっても表示には反映されません。
（※2）車内温度表示は、取付場所によって実際の車室内の温度とは異なる場合があります。

車両状態のチェックをする ②

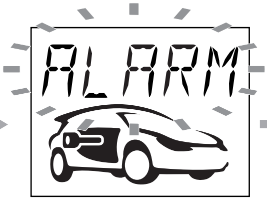
本体にセキュリティの反応履歴が残っている場合

⚠注意 傾斜センサー・ドアセンサー・イグニッションONセンサー・ボンネットセンサー（要SQ209）・OP3センサー（要SQ209）のいずれかが反応した場合は、重大な危険が起こっていると想定されるため、それ以後に発生した衝撃センサーの反応履歴は表示しません。

※全て点滅



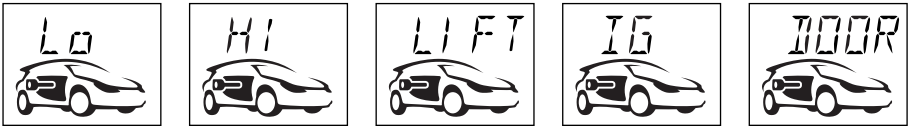
「ピロピロピロ」
電波送信中



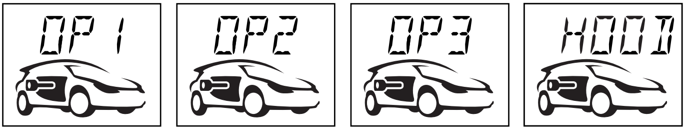
「ピピピピ」
反応履歴あり

セキュリティ反応履歴の見方

最新の反応履歴から順に、最大4件まで表示します。



微衝撃センサー反応時 / 高衝撃センサー反応時 / 傾斜センサー反応時 / イグニッションONセンサー反応時 / ドアセンサー反応時



OP1センサー反応時 / OP2センサー反応時 / OP3センサー反応時 / ボンネットセンサー反応時

オプションセンサー使用時
※セキュリティ拡張BOX（SQ209）が別途必要

参考 セキュリティONの操作または通常走行を行なうと、本体に保存されている履歴は全てクリアされます。

参考

正常に通信を行なう事ができない（通信不成立）場合は、以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。

- ●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
- ●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
- ●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。

これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

リモコンのボタン操作を無効にする(キー操作ロック機能)

解　説

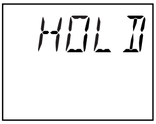
本品はリモコンのボタン操作をロックして、不意の誤操作を防止することができます。
万一に備え、操作時以外はボタン操作をロックしておいてください。

設定方法

1. リモコンの「STOP」ボタンを3秒以上押し続けます。

参考　3秒未満でボタンから指を離すとエンジンストップの操作（→P15）となりますのでご注意ください。

2. 液晶ディスプレイ部に HOLD の文字が表示されます。

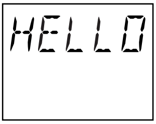


これでボタン操作が無効になりました。

解除方法

1. 設定時と同様に、リモコンの「STOP」ボタンを3秒以上押し続けます。

2. 液晶ディスプレイ部に HELLO の文字が表示されます。



「ピロッ」

これでボタン操作が可能になりました。

ターボタイマーを使用する

本品には、アフターアイドリングが必要なターボ車のために「ターボタイマー機能」が装備されています。ターボタイマー機能を使用すると、キーをOFFにした後、走行時間（エンジンキーをONにしてからOFFになるまでの時間）に応じたアフターアイドリングが自動的に行なえます。

⚠警告

・ターボタイマー機能を使用する際は、必ずセレクトレバーが「P」の位置でキーを抜いてください。また、カウントダウン中にキーを抜いたままセレクトレバーを動かすことができる一部の車両は、ターボタイマー機能を使用しないでください。事故の原因になります。

参考

・キーによるエンジン始動時間が約10秒未満の場合は、ターボタイマーは作動しません。

操作方法

・ターボタイマーを使用するには本体の設定が必要です（→P38）。設定が行なわれていない場合は本機能は作動しませんのでご注意ください。

❶ エンジンが始動している状態（通常の走行状態）から、イグニッションキーをOFFにします。

❷ 自動的にターボタイマーのアフターアイドリングが始まります。

アフターアイドリング時間の目安

走行時間	アフターアイドリング時間	アンテナユニットの音
～　30分	1分	ピッ　ピッ　ピッ……
30分　～　60分	2分	ピピッ　ピピッ　ピピッ……
60分　～	3分	ピピピッ　ピピピッ……

※アンテナユニットの音はアフターアイドリングの残り時間によって変化します。
これにより、おおよそのアフターアイドリング残時間を知ることができます。

❸ アフターアイドリングが終了すると、自動的にエンジンが停止します。

アフターアイドリングを途中で止める場合

リモコンの「STOP」ボタンを押すとアフターアイドリングが停止します。

※リモコンが手元にない場合は以下のいずれかの方法を行なってください。

（a）**P/N検出を行なっている場合（→P41）**

ターボタイマー作動開始から約3秒以上経過したあと、イグニッションキーを「ON」にしてセレクトレバーを一旦「P」から「R」に動かすとカウントダウンが停止します（このとき、フットブレーキは踏み続けてください）。カウントダウンが停止したらセレクトレバーを「P」に戻し、5秒以内にキーでエンジンを切り、キーを抜いてください。

（b）**フットブレーキ検出を行なっている場合（→P41）**

ターボタイマー作動開始から約3秒以上経過したあと、車両のフットブレーキを踏むとエンジンは止まります。

参考

ターボタイマー機能は、NA車などターボタイマーが必要ない車両にも設定することができますが、その場合無駄なアイドリングを行なうこととなり、排気ガスが環境に悪影響を及ぼす原因となるばかりか、騒音の発生やアイドリング時の燃料消費による燃費の悪化を招くため、特にアフターアイドリングの必要がない車種の場合は設定しないようにお願いします。

●純正キーレスエントリー装着車の場合、車両側の構造上、ターボタイマー作動中は純正キーレスエントリーの操作を受け付けない場合があります（本品のドアロック機能は働きます）。

●ガソリンスタンド利用時など、ターボタイマーを途中で止めたい場合は、リモコンからエンジンを停止させる操作をするか、安全機能（P/N検出もしくはフットブレーキ検出）を利用してエンジンを止めることができます。

センサー反応時の動作について ①

解　説

本品は、センサーの反応に応じた様々な警報パターンがあります。
本品を最大限に活用して頂くために、本項の内容をよくお読みになった上でお使いください。
このページに記載されている動作は、セキュリティレベルがNORM（ノーマル）の場合の動作です。
また、設定の内容によっては以下の表示内容と異なる場合があります。
詳しくは設定に関するページをご覧ください。（→P28・P29）

センサー反応時の動作

	サイレンの鳴り方
（1）微衝撃センサー反応時	ピピピピ
（2）高衝撃センサー反応時	ピピピピピ ピピピピピ
（3）傾斜センサー反応時	約30秒間のサイレン音（※1）
（4）ドアセンサー反応時	約30秒間のサイレン音（※1）
（5）イグニッションONセンサー反応時 ※イグニッション検出設定（→P32）を"B"にした場合のみ	約30秒間のサイレン音（※1）
（6）ボンネットセンサー反応時（オプション） ※セキュリティ拡張BOX（SQ209）が必要です	約30秒間のサイレン音（※1）
（7）その他のオプションセンサー反応時 ※セキュリティ拡張BOX（SQ209）が必要です	OP1（注意）　ピピピピ OP2（警告）　ピピピピピ ピピピピピ OP3（撃退）　約30秒間のサイレン音（※）

（※1）約120dBの大音量を発します。
近隣への迷惑防止のため、1回のセキュリティONにつき8回目（SQ167 バックアップサイレン使用時は11回目）以降のサイレン警報はキャンセルします。

参考 衝撃センサー反応後、連続して他のセンサーが反応した場合などは、一旦衝撃センサー反応時の動作をした後に遅れて他のセンサーの反応動作が行なわれます。

参考 微衝撃センサーが連続して反応し続けた場合、本体が異常と判断して一時的に反応をキャンセルします（誤動作防止機能）。この場合、一定時間無反応状態が経過すると復帰します。

センサー反応時の動作について ②

アイドリング中に働くセンサーについて

●アイドリング中は、誤動作を防ぐために「ドアセンサー」および「セキュリティ拡張BOX（SQ209）に接続したOP3およびボンネットセンサー」以外のセンサーをキャンセルします。ただし、アイドリング中に万一これらのセンサーが反応した場合は、一旦エンジンを停止しサイレンを鳴らします。

●スターターやターボタイマー使用時など、アイドリング中にセキュリティをONにした場合、エンジン停止後に自動的に全てのセンサーをONにし、監視状態に入ります。

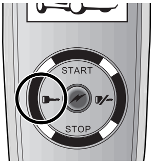
警報を途中で止めるには

●本体（車両側）のサイレンを途中で止める場合

❶ リモコンの ボタンを「カチッ」と押して離します。

※セキュリティONの状態でサイレンが停止します。

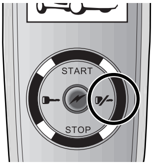
参考 3秒以上 ボタンを押し続けると、パニックアラームの信号（→P24）が送信されますのでご注意ください。



❷ または、リモコンの ボタンをカチッと押して離します。

※セキュリティOFFの状態でサイレンが停止します。

参考 ドアロック配線を行なっている場合、同時にドアがアンロックしますのでご注意ください。



強制的にサイレンを鳴らす（パニックアラーム）

解　説

本品はリモコンからの遠隔操作でいつでも強制的にサイレンを鳴らすことができます（パニックアラーム機能）。

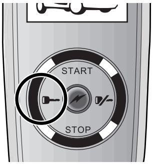
参考 本品のサイレンは、約120dBの大音量を発するため、人やペット・動物などの至近距離で作動させると聴覚障害等の原因となる可能性があります。 絶対にイタズラ目的では使用しないでください。

活用例

・愛車の周辺に明らかな不審人物を発見した場合。
・カージャックなどによる身の危険を周囲に知らせる場合。

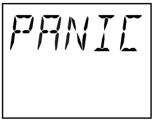
操作方法

1. リモコンの ボタンを3秒以上押し続けます。



参考 3秒未満でボタンから指を離すと、セキュリティONの操作となりますのでご注意ください。

2. 液晶ディスプレイ部に次のような表示が行なわれます。



「ピッ」

3. 本体のサイレンが強制的に約30秒間鳴ります。

参考 パニックアラームが停止した後、セキュリティのON/OFF状態は操作前の状態で保たれています。

参考 誤ってサイレンを鳴らした場合など途中で停止するには、セキュリティONまたはOFFの操作を行なってください（→P16・17）。

参考

正常に通信を行なう事ができない（通信不成立）場合は、以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。

●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。

これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

セキュリティを強制解除する

解　説

万一、リモコンでセキュリティOFFの操作ができなくなった場合は強制解除スイッチを使用することでセキュリティをOFFにすることができます。

参考 強制解除スイッチは他人に知られない場所に取付けてください。（取付マニュアル参照）

操作方法

1. セキュリティONの状態で強制解除スイッチを押します。

2. 一旦セキュリティがOFFになります。

※センサー反応履歴は消去されません。
※再度セキュリティをONにするには、リモコンでセキュリティONの操作を行なう必要があります。

セキュリティ機能の設定

この項では、使用状況によって設定できる多彩なセキュリティ機能を解説しています。

ページ

セキュリティレベルを切り替える ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

ショックセンサーの感度を調整する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

傾斜センサーの感度を調整する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

イグニッションONセンサーの設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

チャープ音（セキュリティON・OFF時のサイレン音）の設定 ・・・・・・・・・ 33

はじめに

セキュリティ機能設定（チャープ音の設定除く）は、セキュリティがOFF（VALETモード含む）の時に行なうことができます。セキュリティが ONの状態で、設定を行なうと Err-07 と表示され設定を完了することができません。

参考 ドアロックの配線を行なっている場合、セキュリティをOFFにするとドアロックも同時に解除されます。車から離れた場所から設定を行ないたい場合、一度セキュリティレベルをVALETモードへ切り換えることで、ドアロックを保ったまま設定を行なうことができます。

セキュリティレベルを切り替える① 出荷時設定=NORM

※本体との通信ができない場所では本設定は行なえません。

解　説

本品は使用する環境に合わせてセキュリティレベルを切り替えることができます。この設定はセキュリティがOFFの時に行なうことができます。（VALETモードの設定は、セキュリティのON・OFFに関わらず行なうことができます。）

■セキュリティレベル毎の機能一覧表　○：作動します　－：作動しません

セキュリティレベル	標準センサー					オプションセンサー（要SQ209）		
	微衝撃センサー	高衝撃センサー	傾斜センサー	ドアセンサー	イグニッションONセンサー	ボンネットセンサー	OP1・OP2センサー	OP3センサー
NORM（ノーマルモード）	○	○	○	○	○	○	○	○
ROAD（路上駐車モード）	－	－	○	○	○	○	－	○
TOWER（立体駐車場モード）	－	－	－	○	○	○	－	○
VALET（バレーモード）	－	－	－	－	－	－	－	－

（※）イグニッションONセンサーは、イグニッション検出設定（→P32）を"B"にした場合のみ作動します。

参考　微衝撃センサーを作動させず、高衝撃センサーのみ作動させたい場合などは、作動させたくないセンサーの感度を"0"に設定してください（→P30）。

活用例

- ●全てのセンサーを活用する場合 ………………………………………… NORM
- ●交通量の多い場所など、衝撃センサーを働かせたくない場合 ………………… ROAD
- ●タワー式駐車場など、ドアセンサーのみを働かせる場合 ………………………… TOWER
- ●ドアロックやスターターカットのみ使用し、センサーを全て働かせない場合 ……… VALET
- ●ドアロック状態を保ったままセキュリティレベルやセンサー感度を変更したい場合……… VALET

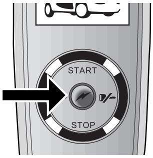
セキュリティレベルを切り替える② 出荷時設定=NORM

※本体との通信ができない場所では本設定は行なえません。

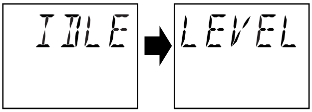
操作方法

※設定状態によって表示内容は異なります。
※途中で設定をやめる場合などは、 を押すことで待受状態に戻すことができます。
また、15秒以上操作を行なわない場合も同様です。

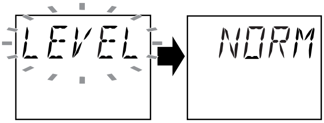
❶ ボタンを3秒以上押し続けます。



❷ リモコンに右図のような表示が行なわれます。
STOPボタンを7回押して LEVEL を表示させます。
※STOPボタンを押しすぎてしまった場合は、STARTボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。



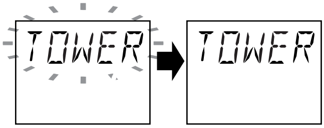
❸ ボタンを押すと、本体との通信を行ない、現在設定されているセキュリティレベルが 液晶ディスプレイに表示されます。



❹ STARTボタンまたはSTOPボタンを押して、希望のセキュリティレベルに合わせます。

（例）

❺ 最後に ボタンを押して、本体へ設定内容を送信します。
※リモコンに Err07・Err99 と表示され設定が完了できない場合はP53～P55のエラー表示一覧表をご確認ください。



ショックセンサーの感度を調整する　出荷時設定=8

※本体との通信ができない場所では本設定は行なえません。

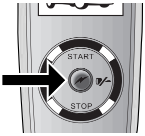
解　説

本品はリモコンで簡単にショックセンサーの感度が調整できます。
感度調整は微衝撃センサー・高衝撃センサーそれぞれ独立して行なうことができます。
この設定はセキュリティがOFF（VALETモード含む）の時に行なうことができます。

操作方法

※設定状態によって表示内容は異なります。
※途中で設定をやめる場合などは、🔑を押すことで待受状態に戻すことができます。
また、15秒以上操作を行なわない場合も同様です。

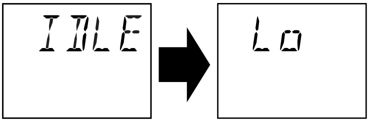
❶ ボタンを3秒以上押し続けます。



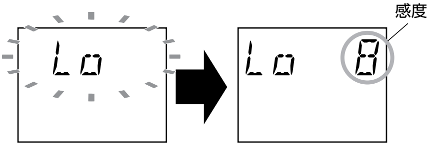
❷ リモコンに右図のような表示が行なわれたら、STOPボタンを数回押してショックセンサーの感度調整モードに切り替えます。

Lo ・・・微衝撃センサーの感度調整
HI ・・・高衝撃センサーの感度調整

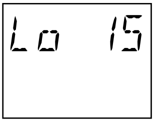
※STOPボタンを押し過ぎた時は、STARTボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。



❸ ボタンを押すと、本体との通信を行ない、現在設定されている感度が液晶ディスプレイに表示されます。



❹ STARTボタンまたはSTOPボタンを押して、数字を上下させ、希望の感度に合わせます。



●感度について

数字が大きいほど、感度が強くなります。

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
OFF	← 感度弱い							標準					感度強い →			最高

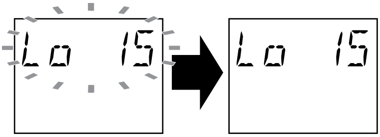
●微衝撃センサーと高衝撃センサーの調整バランスについて（目安）

本品のショックセンサー感度は、おおよそ下図のような調整範囲を持っています。また、微衝撃センサーと高衝撃センサーが両方とも反応した場合は、高衝撃センサーの反応のみが優先されます。このため、微衝撃センサーを低めの設定（1や2など）にし、高衝撃センサーを高めの設定（15や16など）にした場合、微衝撃センサーが反応せず、高衝撃センサーのみが反応する設定となります。

微衝撃センサー	0	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16
高衝撃センサー	0	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16
	OFF	← 弱い（反応しにくい）　強い（敏感に反応する）→

❺ 最後に ボタンを押すと、本体へ設定内容を送信します。

※リモコンに Err07・Err99 と表示され設定が完了できない場合はP53～P55のエラー表示一覧表をご確認ください。



参考 車体などに衝撃を与えてショックセンサー感度を確認する際は、セキュリティONの後、5秒以上経過してから行なってください。

傾斜センサーの感度を調整する　出荷時設定=2

※本体との通信ができない場所では本設定は行なえません。

解　説

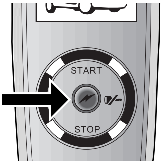
本品はリモコンで簡単に傾斜センサーの感度が調整できます。
この設定はセキュリティがOFF（VALETモード含む）の時に行なうことができます。

参考 本品の3軸傾斜センサーはセキュリティON時の位置を0度（基準値）と認識しますので、坂道など傾きのある場所に駐車した場合などでも使用できます。

操作方法

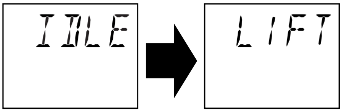
※設定状態によって表示内容は異なります。
※途中で設定をやめる場合などは、（キーボタン）を押すことで待受状態に戻すことができます。
　また、15秒以上操作を行なわない場合も同様です。

❶ （ボタン）ボタンを3秒以上押し続けます。

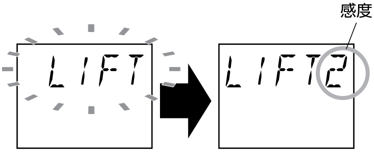


❷ リモコンに右図のような表示が行なわれたら、STOPボタンを4回押して LIFT を表示させます。

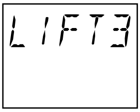
※STOPボタンを押し過ぎた時は、STARTボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。



❸ （ボタン）ボタンを押すと、本体との通信を行ない、現在設定されている感度が液晶ディスプレイに表示されます。



❹ STARTボタンまたはSTOPボタンを押して、数字を上下させ、希望の感度に合わせます。



●感度について

数字が大きいほど、感度が強くなります。

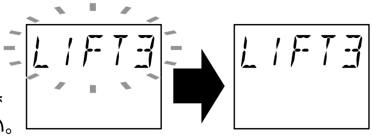
0	1	2	3
OFF	感度弱い ←	標 準	→ 感度強い

●反応する角度の目安

感度	反応角度
3	約1.2度
2	約1.8度
1	約2.4度
0	反応しません

❺ 最後に （ボタン） ボタンを押して、本体へ設定内容を送信します。

※リモコンに Err07・Err99 と表示され設定が完了できない場合はP53～P55のエラー表示一覧表をご確認ください。



参考 実際にジャッキアップするなどして感度を確認する際は、セキュリティONの後、5秒以上経過してから行なってください。

イグニッションONセンサーの設定　出荷時設定=A

※本体との通信ができない場所では本設定は行なえません。

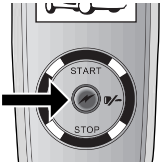
解　説

本項の設定を行なうことで、イグニッションONセンサーを使用することができます。
この設定はセキュリティがOFF（VALETモード含む）の時に行なうことができます。

操作方法

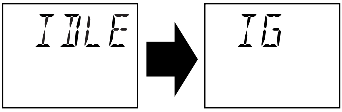
※設定状態によって表示内容は異なります。
※途中で設定をやめる場合などは、 を押すことで待受状態に戻すことができます。
　また、15秒以上操作を行なわない場合も同様です。

1. ボタンを3秒以上押し続けます。

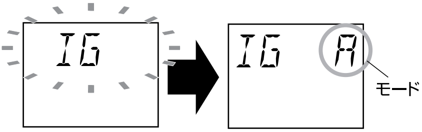


2. リモコンに右図のような表示が行なわれたら、STOPボタンを3回押して IG を表示させせます。

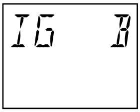
※STOPボタンを押し過ぎた時は、STARTボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。



3. ボタンを押すと、本体との通信を行ない、現在設定されているモードが液晶ディスプレイに表示されます。



4. STARTボタンまたはSTOPボタンを押して、希望するモードに合わせます。

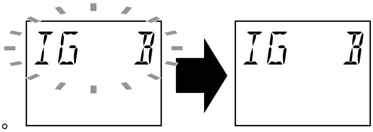


●設定の説明　※いずれの場合も、セキュリティON中にエンジンスターター機能を使用したり、ターボタイマー使用中にセキュリティONにする事は可能です。

モード	設　定	動作内容
Aモード	イグニッションONセンサーを使用しない場合	イグニッションONセンサーは働きません。
Bモード	イグニッションONセンサーを使用する場合	セキュリティON中にキーでエンジンを掛けようとすると、30秒間サイレンを鳴らします。

5. 最後に ボタンを押して、本体へ設定内容を送信します。

※リモコンに Err07・Err99 と表示され設定が完了できない場合はP53～P55のエラー表示一覧表をご確認ください。



参考　実際に動作を確認する際は、セキュリティONの後、5秒以上経過してから行なってください。

チャープ音（セキュリティON-OFF時のサイレン音）の設定 出荷時設定=ON

※本体との通信ができない場所では本設定は行なえません。

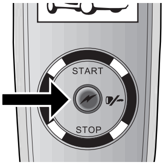
解　説

本品はリモコンで簡単にチャープ音の有無が設定できます。
この設定はセキュリティのON・OFFに関わらず行なえます。

操作方法

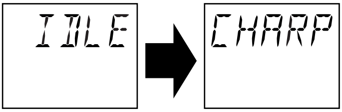
※設定状態によって表示内容は異なります。
※途中で設定をやめる場合などは、 を押すことで待受状態に戻すことができます。
　また、15秒以上操作を行なわない場合も同様です。

❶ ボタンを3秒以上押し続けます。

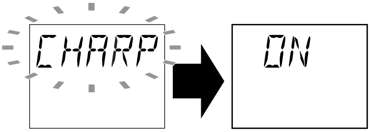


❷ リモコンに右図のような表示が行なわれたら、STOPボタンを1回押して CHARP を表示させます。

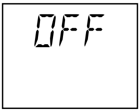
※STOPボタンを押し過ぎた時は、STARTボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。



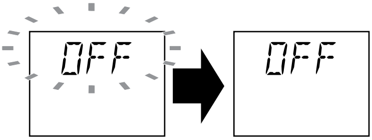
❸ ボタンを押すと、本体との通信を行ない、現在の設定状況が液晶ディスプレイに表示されます。



❹ STARTボタンまたはSTOPボタンを押して、設定を変更します。



❺ 最後に ボタンを押して、本体へ設定内容を送信します。



エンジンスターター関連の設定

この項では、エンジンスターターやターボタイマー関連の設定について解説します。

ページ

エンジンスターターのセルモーター回転時間を設定する ········· 36
エンジンスターターの自動停止時間を設定する ········· 37
ターボタイマー機能の設定 ········· 38
サイドブレーキ検出の設定 ··········· 40
P/N検出・フットブレーキ検出の設定 ··········· 41
ホンダABS装着車に取付ける場合の設定 ··········· 42
L端子配線を行なう場合の設定 ··········· 43
スターターカット（乗り逃げ防止）機能のON/OFF設定 ··········· 44
OP端子出力の設定 ··········· 45
グロータイムの設定 ··········· 46
P/N検出時のST1/ST2切替 ··········· 47
P/N検出データの設定 ··········· 48

エンジンスターターの セルモーター回転時間を設定する 出荷時設定=1.0秒

解説

本品は、エンジンスターター作動時のセルモーターの回転時間を5段階で切り替えることにより確実なエンジン始動を行なうことができます。

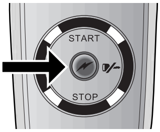
参考

- 本品は、一度目の始動動作でエンジンが掛からなかった場合、リトライ機能が働き、最初の始動と合わせて合計3回のエンジン始動を試みます。またその際は、一回の始動毎にセルモーターの回転時間が0.5秒ずつ長くなる仕様となっています　（最長時で約4.0秒となります）。
- 短めの設定で正常に始動する車両に対して長めの設定を行なうと、エンジンが掛かった後もセルモーターが回ることになり、その時セルモーターから「カリカリ‥」と異音が発生する原因となります。
- 純正イモビライザー装着車は、車両構造上セルモーターを長めに回す必要があります。純正イモビライザー装着車でエンジン始動が行なわれない場合は設定時間を長めに変更してください。

設定方法

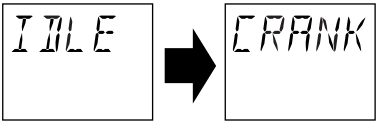
※設定状態によって表示内容は異なります。
※途中で設定をやめる場合などは、 を押すことで待受状態に戻すことができます。
　また、15秒以上操作を行なわない場合も同様です。

1. ボタンを3秒以上押し続けます。

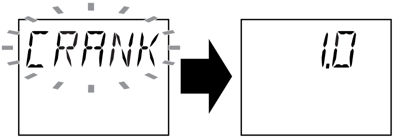


2. リモコンに IDLE の表示が行なわれたら、STOPボタンを9回押してセルモーター回転時間の設定モード CRANK を表示させます。

※STOPボタンを押し過ぎた時は、STARTボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。



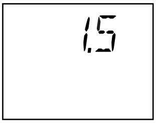
3. ボタンを押すと、本体との通信を行ない、現在の設定状況が液晶ディスプレイに表示されます。



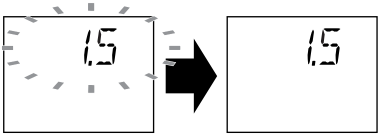
4. STARTボタンまたはSTOPボタンを押して、設定を変更します。

設定できる値

0.5/1.0（標準設定）/1.5/2.0/3.0秒



5. 最後に ボタンを押して、本体へ設定内容を送信します。



参考

本設定は、アンテナユニットの設定スイッチNo.2でも変更できます。（→P39）
※アンテナユニットの設定スイッチでは、1.0秒（スイッチOFF時）または、1.5秒（スイッチON時）の2段階のみ切替可能です。
※設定値は、設定スイッチまたはリモコン設定いずれの場合も最後に設定した内容が適用されます。

エンジンスターターの自動停止時間を設定する 出荷時設定=15分

解 説

本品は、リモコンでエンジンを始動した後そのままにしておくと、設定した時間でエンジンが自動的に停止するようになっています。
例えば寒冷地などで、15分では暖機運転が完了しない場合など、設定時間を長くすることができます。

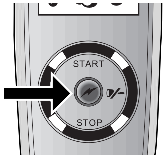
禁止

いずれの設定の場合も、必要以上の無駄なアイドリングは避けてください。
排気ガスなどにより環境汚染の原因となります。

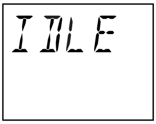
設定方法

※設定状態によって表示内容は異なります。
※途中で設定をやめる場合などは、キーボタンを押すことで待受状態に戻すことができます。
　また、15秒以上操作を行なわない場合も同様です。

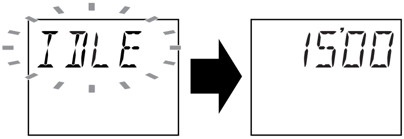
1. ボタンを3秒以上押し続けます。



2. リモコンに IDLE の表示が行なわれます。

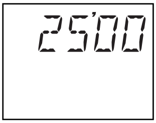


3. ボタンを押すと、本体との通信を行ない、現在の設定状況が液晶ディスプレイに表示されます。

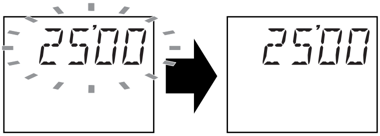


4. STARTボタンまたはSTOPボタンを押して、設定を変更します。

設定できる値
10/15（標準設定）/20/25/30分



5. 最後に ボタンを押して、本体へ設定内容を送信します。



参考

本設定は、アンテナユニットの設定スイッチNo.3でも変更できます。（→P39）
※アンテナユニットの設定スイッチでは、15分（スイッチOFF時）または、30分（スイッチON時）の2段階のみ切替可能です。
※設定値は、設定スイッチまたはリモコン設定いずれの場合も最後に設定した内容が適用されます。

ターボタイマー機能の設定 出荷時設定=OFF

解説

本品は、走行時間に応じて自動的にターボタイマーの作動時間（アフターアイドリング時間）が変化します。
アフターアイドリング時間の目安

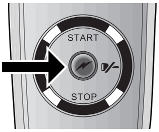
走行時間	アフターアイドリング時間	アンテナユニットの音
〜　30分	1分	ピッ　ピッ　ピッ……
30分　〜　60分	2分	ピピッ　ピピッ　ピピッ……
60分　〜	3分	ピピピッ　ピピピッ……

※アンテナユニットの音はアフターアイドリングの残り時間によって変化します。
これにより、おおよそのアフターアイドリング残時間を知ることができます。

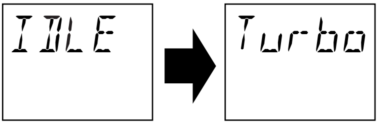
設定方法

※設定状態によって表示内容は異なります。
※途中で設定をやめる場合などは、（鍵マーク）を押すことで待受状態に戻すことができます。
また、15秒以上操作を行なわない場合も同様です。

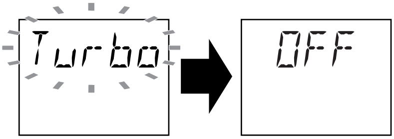
❶ （ターボマーク）ボタンを3秒以上押し続けます。



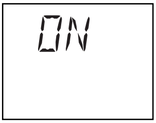
❷ リモコンに IDLE の表示が行なわれたら、STOPボタンを8回押してターボタイマーの設定モード Turbo を表示させます。
※STOPボタンを押し過ぎた時は、STARTボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。



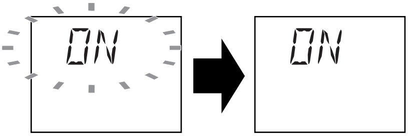
❸ （ターボマーク）ボタンを押すと、本体との通信を行ない、現在の設定状況が液晶ディスプレイに表示されます。



❹ STARTボタンまたはSTOPボタンを押して、設定を変更します。



❺ 最後に （ターボマーク） ボタンを押して、本体へ設定内容を送信します。



参考

本設定は、アンテナユニットの設定スイッチNo.4でも変更できます。（→P39）
※ターボタイマーを使用しない（スイッチOFF時）、使用する（スイッチON時）が選択可能です。
※設定値は、設定スイッチまたはリモコン設定いずれの場合も最後に設定した内容が適用されます。

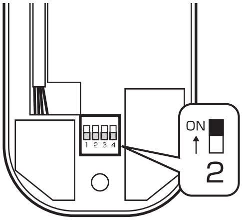
関連項目

ターボタイマーを使用する（→P21）

参考

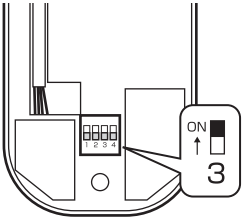
P36～P38の設定は、アンテナユニット裏面の設定スイッチをON・OFFにすることでも変更することができます。
※設定値は、設定スイッチまたはリモコン設定のいずれの場合も最後に設定した内容が適用されます。
※アンテナユニットの設定スイッチNo.1（ID書込）についてはP50をご覧ください。

セルモーター回転時間の設定（→P36）



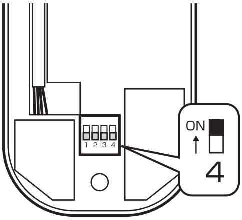
スイッチの位置	セル回転時間
ON	長め（約1.5秒）
OFF	短め（約1秒） （標準設定）

アイドリング時間の設定（→P37）



スイッチの位置	アイドリング時間
ON	30 分
OFF	15 分 （標準設定）

ターボタイマー機能の設定（→P38）



スイッチの位置	ターボタイマー
ON	使用する
OFF	使用しない （標準設定）

サイドブレーキ検出の設定 出荷時設定=キャンセルする

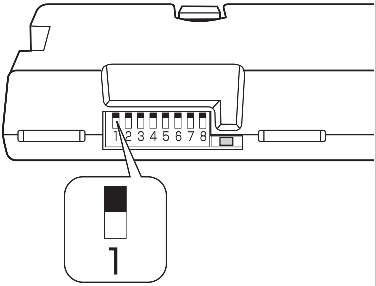
※この設定は通常、取付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解 説

本品は、サイドブレーキ（または足踏み式のパーキングブレーキ）が掛かっていない時はリモコンからエンジンを始動できないようにすることができます。
これは本品の安全機能の1つですが、寒冷地などサイドブレーキを掛けずに駐車することがある場合は標準設定のままご使用ください。
また、サイドブレーキ検出を行なう（「キャンセルしない」に設定する）場合は必ずサイドブレーキ検出コードを車両に配線する必要があります。
車両配線に関しては、別紙の取付マニュアルをご覧ください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.1「サイドブレーキ検出キャンセル」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	サイドブレーキ検出キャンセル
OFF（上側）	キャンセルしない
ON（下側）	キャンセルする（標準設定）

P/N検出・フットブレーキ検出の設定 出荷時設定=P/N検出

※この設定は通常、取付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解 説

本品の安全機能にはフットブレーキ検出機能とP/N検出機能がありますが、使用にあたっては、これらの安全機能のうちどちらかを選択していただく必要があります。
これらはエンジンスターター機能およびターボタイマー機能を安全に使っていただくための重要な設定ですので、取付け時に正しく設定が行なわれている必要があります。

参考

・フットブレーキ検出を行なう場合は必ずフットブレーキ検出コードを車両に配線する必要があります。
詳しくは、別紙の取付マニュアルを参照してください。

・P/N検出を行なう場合は併せてP/N検出時のST1/ST2切替（→P47）および P/N検出データの設定（→P48）を行なう必要があります。

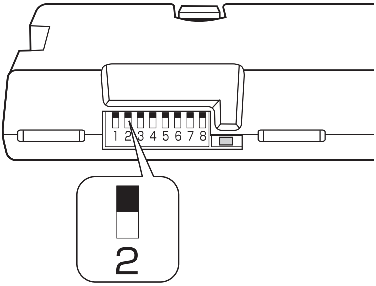
・ P/N検出は、車両によっては検出できない場合があります。その際はご面倒でもフットブレーキ検出を行なう必要があります。

注意

本品のP/N検出機能は、バッテリー交換等で本体の電源が断ち切られた場合にもデータを保持します。このためP/N検出データを設定した本体を他の車両に付け替える場合などは、一度本設定を「フットブレーキ検出」に切り替えてP/N検出データを消去した後、再度設定を行なってください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.2「フット/PN切替」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	フット/PN切替
OFF（上側）	フットブレーキ検出 ※一旦フットブレーキ検出に切替えるとP/N検出データは、消失します。
ON（下側）	P/N検出 （標準設定）

関連項目

P/N検出データの設定（→P48）
P/N検出時のST1/ST2切替（→P47）

エンジンスターター関連の設定

ホンダABS装着車に取付ける場合の設定 出荷時設定=非装着車

※この設定は通常、取付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解説

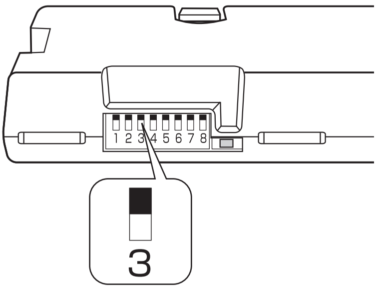
ABS（アンチロック・ブレーキ・システム）を純正装着しているホンダ車に本品を取付け、本品のリモコンでエンジンを始動した際にメーターパネル内の「ABS警告灯」が点灯したままになる場合のみこの設定を「ON」に切替えてください。

参考

- ホンダABS装着車に取付ける場合にこの設定を誤ると、エンジンスターターによる始動時にメーターパネル内のABS警告灯が点灯したままになる場合があります。
- ホンダABS装着車以外に取付ける場合にこの設定を誤ると、エンジンスターターによる始動が正常に行なわれない場合があります（セルは回るがエンジンが掛からないなど）。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.3「ホンダABS」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	ホンダABS
OFF（上側）	非装着車 （標準設定）
ON（下側）	装 着 車

L端子配線を行なう場合の設定 出荷時設定=しない

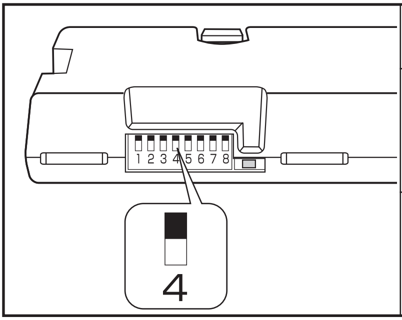
※この設定は通常、取付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解 説

本品は車両特性によりエンジンの始動判断が行なえない場合、L端子（→P53表下 参考 ）に配線を行なうことで正常な始動判断を行なうことができるようになります。
この設定は、L端子への配線を行なった場合のみ必要となります。
それ以外の場合は必ず標準設定のままご使用ください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.4「L端子配線」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	L端子配線
OFF（上側）	しない （標準設定）
ON（下側）	す　る

スターターカット（乗り逃げ防止）機能のON/OFF設定

出荷時設定=使用しない

※ドアロック配線を行なっていない場合も本機能はお使いいただけます。

解 説

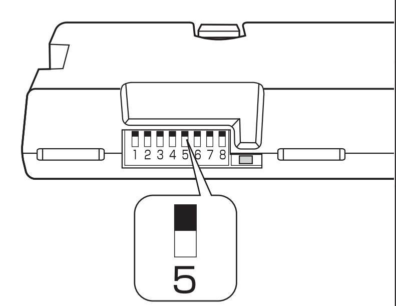
本品は、万一の際に車両が乗り逃げされる事を防ぐため、本品のリモコンでドアをロック（セキュリティON）している間には例え純正のキーを使用された場合でもセルモーターを回らないようにすることで、エンジンを掛ける動作を禁止できます。
本品のリモコンでドアをアンロック（セキュリティOFF）すると通常のエンジン始動が行なえるようになります。
また、本機能の作動中でも、本品のリモコンからエンジンを掛けることは可能です。
尚、この機能は純正イモビライザー装着車でも同様にお使いいただけます。

⚠注意

- この設定を行なった場合、ドアロック中にリモコンが電池切れになり、リモコンからドアアンロックができない状況ではキーによるエンジン始動ができなくなることをご了承ください。その場合は、リモコンの電池を交換してからドアアンロックの操作をして本機能を解除、もしくはキーによる解錠の後に、強制解除ボタン（→P25）により解除する必要があります。
- リモコンの電池容量が不足してくると、リモコン操作時にバックライトの明るさが暗くなったり不安定になります。このような状態になったら、早めに電池交換を行なっておいてください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.5「スターターカット」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	スターターカット
OFF（上側）	使用しない（標準設定）
ON（下側）	使用する

強制解除の方法

スターターカット中のリモコン紛失などの場合は、P25の手順に従ってセキュリティ機能を強制解除してください。

エンジンスターター関連の設定

OP端子出力の設定　出荷時設定＝A

※この設定は通常、取付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解 説

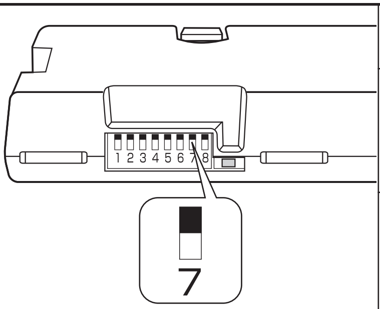
本品のオプション端子に、以下のアダプターを接続する場合は必ず設定を「B」にしてください。

・TE413（イモビ付車対応アダプター2）
・TE417（純正セキュリティ対応アダプター1）
・TE420（キー検出制御アダプター）
・TE422（イモビ付車対応アダプター5）　　　　（2006年9月現在）

※他のイモビ付車対応アダプター（例: TE421）と上記オプション（例: TE417）を併用する場合なども設定を必ず「B」にしてください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.7「OP端子出力」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	OP端子出力
OFF（上側）	A（標準設定）
ON（下側）	B（TE413/417/420/422）

グロータイムの設定　出荷時設定=8秒

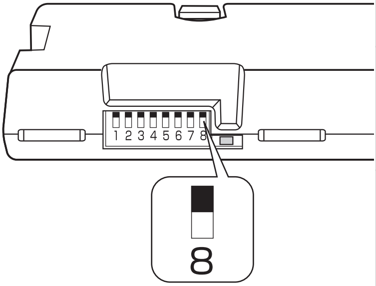
※この設定は通常、取付け時のみに行なうものです。
　特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解説

この設定により、アンテナユニットがエンジンスターターの始動信号を受信してから、セルを回すまでの時間を変更することができます。
グロータイムを短く設定すると、リモコン操作からエンジン始動までの時間を短くすることができますが、車両によっては正常なエンジン始動ができなくなります。
（特にディーゼル車の場合は冬期など寒冷時に掛からなくなる恐れがあります。通常は標準設定のままお使いください。）

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.8「グロータイム」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	グロータイム
OFF（上側）	8秒 （標準設定）
ON（下側）	5秒

P/N検出時のST1/ST2切替 出荷時設定=ST1

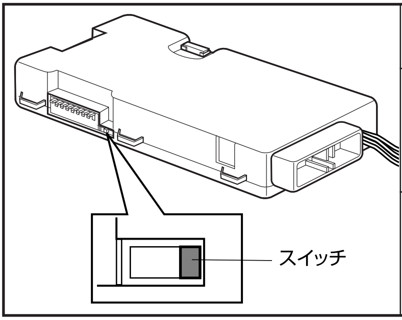
※本体設定がP/N検出モードになっている場合(→P41)のみ設定が可能です。

解 説

この設定は、P/N検出(→P41)を使用する場合、正常なシフトポジション検出ができるように行なうものです。

設定方法

メインユニット設定スイッチの横にあるスライドスイッチを切り替えることで設定が行なえます。
正常にP/N検出が行なえる位置でご使用ください。

<table>
<tr><td rowspan="3">
</td><td>スイッチの位置</td><td>P/N検出モード</td></tr>
<tr><td>右　側</td><td>ST1(標準設定)</td></tr>
<tr><td>左　側</td><td>ST2</td></tr>
</table>

関連事項

P/N検出・フットブレーキ検出の設定(→P41)
P/N検出データの設定(→P48)

P/N検出データの設定

※本体設定がP/N検出モードになっている場合（→P41）のみ設定が可能です。

解説

以下のような場合には、本頁記載の手順に従ってP/N検出データの設定が必要です。
▼はじめて本品を取付けた時
▼本品を別の車両に付け替えた時（下記 ⚠注意 を参照してください。）

設定方法

※設定は車に乗り込んで行ないます。

⚠注意 本品のP/N検出機能は、バッテリー交換等で本体の電源が断ち切られた場合にもデータを保持します。このためP/N検出データを設定した本体を他の車両に付け替える場合などは、一度メインユニット設定スイッチNo.2を「フットブレーキ検出」に切り替えてP/N検出データを消去した後、再度設定を行なってください。

記号の見方

━	長い音（ピー）
●	短い音（ピッ）

❶ セレクトレバーを「P」にしてキーを抜く

❷ リモコンでエンジンスタート操作をする
→ エンジンが掛かる場合：P/N設定済みあるいはフット接続済みです。（このままお使いください）

❸ アンテナユニットから「ピー・ピー・ピー・ピー」×2回鳴る
━ ━ ━ ━ ×2
※他の音が出る場合はP54参照

❹ 20秒以内にキーをON（メーターパネルが点灯する位置）にする
（NG）→ アンテナユニットから「ピ・ピ・ピ・ピー」×2回鳴る
● ● ● ━ ×2
→ 車種別専用ハーネス品番および車種別専用ハーネス取付状態を確認してください。
※20秒以内にキーをONに出来なかった場合は、もう一度 ❶ から設定を行ないます。
（OK）※OK・NG いずれかの音がするまでそのまま待機

❺ アンテナユニットから「ピー」と1回鳴る
━ ×1

❻ 20秒以内にブレーキを踏みながらセレクトレバーを「R」にする
（NG）→ アンテナユニットから「ピ・ピ・ピ・ピー」×2回鳴る
● ● ● ━ ×2
→ **P/N検出モードを切り替えて（→P47）再度設定を行ないます。**
※20秒以内にセレクトレバーを「R」に出来なかった場合は、もう一度 ❶ から設定を行ないます。
→ P/N検出モードを切り替えても設定できない場合
→ P/N検出の設定ができない車です。フットブレーキ検出コードの配線を行ない、メインユニットの設定スイッチNo.2（フット/PN切替）を「フット」（OFF側）に切り替えてください。（→P41）
（OK）※OK・NG いずれかの音がするまでそのまま待機

❼ アンテナユニットから「ピー」と1回鳴る
━ ×1

❽ セレクトレバーを「P」に戻してキーを抜く

設定完了

関連事項

P/N検出・フットブレーキ検出の設定（→P41）
P/N検出時のST1/ST2切替（→P47）

取付け後のメンテナンスなど

この項では、消耗品パーツの交換や故障と思われる際のトラブルシューティングなど、
本品を長くご愛用いただくために必要な情報を解説しています。

ページ

リモコンIDの登録・通信周波数切替の方法 ………… 50

リモコンの電池交換について ………… 51

エンジンスターター機能が作動しない場合 ………… 52

故障かな?と思ったら ………… 56

リモコンIDの登録・通信周波数切替の方法

※本体との通信ができない場所では本設定は行なえません。

注意 ※本品は、国土交通省エンジンスターターガイドラインに基づき、新しいリモコンのID登録を行なうと、以前記憶していたリモコンでの操作ができなくなります。

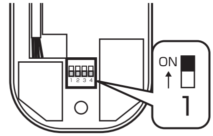
解説

本品は、万一のリモコン紛失の際など別売のスペアリモコン（品番:TER-W3000）を使用することができます。また、混信・妨害電波などにより通信が安定しない場合には、本項の操作を行なうことで通信周波数チャンネルを任意に切り替えることができるため、本品をより安定した電波環境で使用することができます。

操作方法

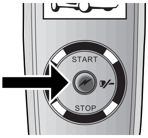
※エンジンが停止した状態で操作してください。
※この操作は5分以内に完了するようにしてください。

1. アンテナユニット裏の設定スイッチNo.1「ID書込」をONにします。
（アンテナユニットのLEDが点灯します。）

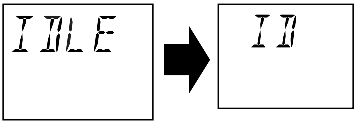


アンテナユニット裏面

2. ボタンを3秒以上押し続けます。

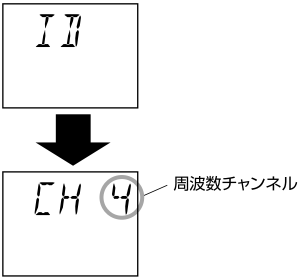


3. リモコンに IDLE の表示が行なわれたら、STOPボタンを2回押してID登録モード ID を表示させます。
※STOPボタンを押し過ぎた時は、STARTボタンを押すことでひとつ前に戻すことができます。



4. ボタンを押すと本体との通信を行ない、現在の通信周波数チャンネル（1～6）が表示されますので、STARTボタンまたはSTOPボタンを押して、希望する周波数に合わせ ボタンを押します。

参考 通常は周波数を変更する必要はありません。



5. アンテナユニットのLEDが一旦消灯し再び点灯します。

6. アンテナユニット裏の設定スイッチNo.1「ID書込」をOFFにします。

リモコンの電池交換について

解説

本品の電池寿命（CR2025×2ヶ）は、常温時において1日10回の使用で約1年間です。
電池が消耗すると、送信距離が短くなったり、操作ができなくなることが考えられますので、定期的な電池の交換をおすすめします。また、出荷時にあらかじめリモコンに入っている電池はモニター用につき、通常より電池寿命が短くなる場合があります。
※本品に使用する電池（CR2025×2ヶ）は、多くの電器店、コンビニエンスストア等でもお買い求め頂けます。

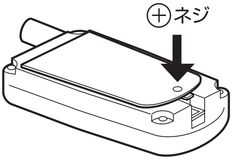
⚠注意 電池交換の際は、2ヶの電池を共に新しい電池と交換してください。
古い電池と新しい電池を混ぜて使用すると液漏れ等の原因になりますので絶対に行なわないでください。

参考 リモコンの電池容量が不足してくると、リモコン操作時にバックライトの明るさが暗くなったり不安定になります。このような状態になったら、あらかじめ早めに電池交換を行なっておいてください。

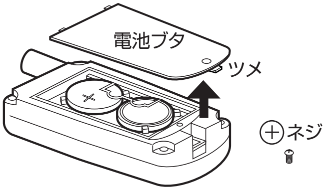
電池の交換方法

※交換時は非常に小さいネジを外します。万一落とした場合に紛失しないよう、できるだけ室内での作業をおすすめします。

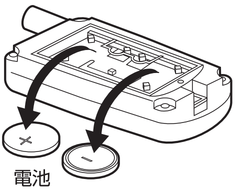
❶ 精密ドライバーを使用し、リモコン裏面の電池ブタ部分にある ⊕ ネジを外します（ネジの紛失に注意）。



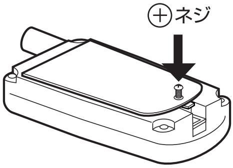
❷ 電池ブタを上に持ち上げて外します。
※電池ブタを外す際はドライバーの先端などでツメを持ち上げてください。



❸ ⊕ ⊖ の方向に注意して電池を交換します。



❹ 電池ブタを戻し、❶ で外したネジで止めます。



使い終わった電池は

使い終わった電池は、各自治体が定める方法で処理してください。

エンジンスターター機能が作動しない場合

必ず下記の手順に従って確認作業を行なってください。

手順 ❶ リモコン電池の状態を確認する（→P51）

・リモコンの電池は正しく入っていますか？
・リモコンの電池が消耗していませんか？

手順 ❷ 取付車種および取付ハーネス品番などを確認する

・取付車種が本品の取付不可車種になっていませんか？（店頭の車種別ハーネス適合表等で確認してください。）
・ハーネスの品番は合っていますか？（店頭の車種別ハーネス適合表等で確認してください。）
・車種別専用ハーネスのアースコード（黒）の接続は正常ですか？ゆるみ等はありませんか？

手順 ❸ キーでエンジンがかかるかどうか確認する

（※）あらかじめP17の「ドアをアンロックする」を参照の上、スターターカット機能をOFFにしてください。
スターターカット機能（→P44）がONになっているとキーでのエンジン始動は行なえません。

キーでもエンジンがかからない場合

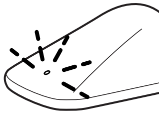
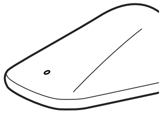
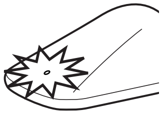
・車種別専用ハーネス及び、イモビ付車対応アダプターが正しく接続されているかどうか確認してください。

キーならばエンジンがかかる場合

・純正イモビライザー装着車の場合は、イモビ付車対応アダプターの配線・ループアンテナの取り付け位置・ケース内のキーの固定位置などを調整してください。
・メインユニットのヒューズが切れていないかどうか確認してください。
・メインユニットの設定スイッチNo.3「ホンダABS」の設定を確認してください。

手順 ❹ 通常待機時の防犯LEDの発光状態を確認する

アンテナユニットにある防犯LEDの発光状態を確認します。
確認の際、直射日光の当たる場所など明るいところでは防犯LEDの発光状態が目視しにくいことがあります。そのような場合はアンテナユニットの周囲を手で覆うなど、防犯LEDの点灯状態が見やすいようにして確認してください。

LEDの状態		原因・対処方法
	ゆっくり点滅を繰り返している場合	通常の受信待機中です。 手順 ❺ に進んでください
	ランプが消えたままになっている	エンジンキーがONの位置になっている場合は、エンジンキーを抜いてください。キーが抜いてあるにもかかわらず、アンテナユニットのLEDが点滅しない場合、本品のアースコードの接続場所が適切でない可能性がありますので、アースコードの接続場所を変更してください。また、アンテナユニットのコネクターがメインユニットに正しく接続されているか確認してください。
	ずっと点灯し続ける	ID書込モードになっています。 アンテナユニット裏の設定スイッチNo.1がONになっている場合はOFFに切り替えてください。

エンジンスターター機能が作動しない場合

手順 ❺ リモコンでエンジンスタートの操作を行ない、リモコンの液晶ディスプレイおよびアンテナユニットのLEDの状態を確認する

本品にはエンジンの始動ができない原因を自己診断して、リモコンの液晶ディスプレイにエラーNo.を表示し、さらにアンテナユニットのLEDおよびブザー音によって知らせる機能があります。

操作方法

リモコンのSTARTボタンを押し、エンジンスタートの操作をしてください。（→P14）
その時リモコンの液晶ディスプレイに表示される内容とアンテナユニットの防犯LEDおよびブザーの状態を確認してください。

エラー表示一覧表

● ＝短いブザー音およびＬＥＤの点灯　　▬ ＝長いブザー音およびＬＥＤの点灯

リモコンの表示	ブザー音およびLEDの状態	原因・対処方法
Err01	●●●▬　●●●▬	**◎P/N検出エラー 1** シフトポジションが「P」または「N」以外の位置になっている可能性があります。エンジンを掛けることができる位置にシフトポジションを切替えてください。 シフトポジションが「P」または「N」の位置であるにも関わらずこのエラーが出る場合は、メインユニットの設定スイッチNo.2（フット/PN切替）をOFFにし、5秒程度待ってから再びONに切替え、P48を参考の上、再びP/N検出データの設定を行なってください。
Err02	●●▬●　●●▬●	**◎フットブレーキ検出エラー** フットブレーキ検出コード（車種別専用ハーネスの細い紫コード）の配線が誤っている可能性があります。 フットブレーキ検出を使用せずにP/N検出を使用する場合は、必ずメインユニットの設定スイッチNo.2（フット/PN切替）を「P/N」（ON側）に切り替えてください。
Err03	●●▬▬　●●▬▬	**◎サイドブレーキ検出エラー** サイドブレーキ検出を使用しない場合は、メインユニットの設定スイッチNo.1（サイドブレーキ検出キャンセル）が「キャンセルする」（ON側）になっているかどうか確認してください。 サイドブレーキ検出を使用する場合は、サイドブレーキ検出コード（車種別専用ハーネス付属の細い橙コード）の配線が誤っている可能性があります。サイドブレーキ検出コードの配線を確認してください。
Err04	●▬●●　●▬●●	**◎L端子エラー** L端子の配線が誤っている可能性があります。 配線を確認してください。（下記参考参照）

P54へつづく
↓

参考 L端子コードとは、エンジンルーム内のオルタネータから出ているコードのうち、① バッテリーへ行く太いコード以外で、② イグニッションON時は約+2V以下の電圧で、③ エンジン始動後+12Vが出るコードです。

エンジンスターター機能が作動しない場合

リモコンの表示	ブザー音およびLEDの状態	原因・対処方法
Err05	●▬●▬　●▬●▬	◎バッテリー容量エラー 車両バッテリーの電圧が低く、セルモーターを回せません。車両のバッテリーを充電してください。 （バッテリー上がりを未然に防ぐための機能です）
Err06	●▬▬●　●▬▬●	◎始動判断エラー1（始動判断できない） **セルは回るが、エンジンがスタートしない場合** セルモーターの作動時間が短いことが考えられます。リモコンから、セルモーター回転時間を長めに設定してください。（→P36）もしくは、アンテナユニットの設定スイッチNo.2（セル回転時間）を「長め」（ON側）に切り替えてください。（→P39）また、イモビ付車対応アダプターを使用している場合は、アダプターが正常に取り付けられているか確認してください。 **エンジン始動後すぐに止まってしまう場合** 車両特性によりエンジンの始動判断が行なえません。始動判断が正常に行なわれない場合は、車両オルタネータのL端子コードに専用ハーネス付属のL端子コード（茶色の細い線）を接続した上で、L端子配線の設定（→P43）を行なってください。（下記参考参照）
Err07	―	◎セーフティエラー **エンジンスターター・セキュリティがONにできない場合** 車両のイグニッションキーがキーによってONになっています。 イグニッションキーを抜いてください。 **セキュリティレベル・センサー感度の設定ができない場合** セキュリティがONになっています。セキュリティをOFFにするかVALETモードへ変更してください。（→P17・P28）
Err08	▬●●●　▬●●●	◎スリープモード 14日以上エンジンをスタートさせていない場合は、スリープモードに入るためエンジンスタートができません。 キーで一度エンジンを掛けてスリープモードを解除してください。
Err 15	▬▬▬▬ ▬▬▬▬	◎P/N検出エラー 2 P/N検出が設定されていません。 P48を参照の上、P/N検出の設定を行なってください。P/N検出が正常に行なえない車両の場合は、メインユニットの設定スイッチNo.2（フット/PN切替）を「フット」（OFF側）に切り替えて、フットブレーキコード（車種別専用ハーネスの細い紫コード）を配線してください。（→別紙取付マニュアル参照）

P55へつづく
↓

参考 L端子コードとは、エンジンルーム内のオルタネータから出ているコードのうち、① バッテリーへ行く太いコード以外で、② イグニッションON時は約+2V以下の電圧で、③ エンジン始動後+12Vが出るコードです。

エンジンスターター機能が作動しない場合

リモコンの表示	ブザー音およびLEDの状態	原因・対処方法
Err90	――	◎送信エラー リモコンから電波を送信できませんでした。くわしくはP15下に記載されている 参考 を参照してください。改善しない場合はP50をご覧になり、周波数変更をお試しください。
Err99	――	◎通信エラー リモコンとアンテナユニット間の通信が成立しませんでした。 くわしくは、P15下に記載されている 参考 を参照してください。
――	エンジンが始動しないのに点灯したままの状態が続く場合	◎始動判断エラー2（誤った始動判断を行なう） 車両特性により、誤った始動判断を行なっています。メインユニットの設定スイッチNo.3（ホンダABS）の設定を確認してください。それでも始動判断が正常に行なわれない場合は、車両オルタネータのL端子コードに専用ハーネス付属のL端子コード（茶色の細い線）を接続した上で、L端子配線の設定（→P43）を行なってください。（下記参考参照）
		◎ID書込モード リモコンのID書込モードになっています。アンテナユニット裏の設定スイッチNo.1がONになっている場合はOFFに切り替えてください。

参考　L端子コードとは、エンジンルーム内のオルタネータから出ているコードのうち、① バッテリーへ行く太いコード以外で、② イグニッションON時は約+2V以下の電圧で、③ エンジン始動後+12Vが出るコードです。

故障かな？と思ったら

	症　　状	解　　説	参照ページ
リモコンについて	リモコンが操作できない	リモコンの電池が消耗していませんか？ 新しい電池に交換してから操作してください。	P51
		リモコン裏面の絶縁シートが付いたままの場合、外してからご使用ください。	–
	通信完了まで時間がかかる	本品は、リモコン操作（電波送信）を行なった後に車両側アンテナユニットからのアンサーバック信号が受信できなかった場合、自動的に再送信を試みます。この場合、通信完了までの時間が通常より長く掛かりますが異常ではありません。	–
	リモコンでエンジンを止めることができない	キーでエンジンを掛けている時は、リモコンでのエンジン停止は行なえません。	P15
	エンジンスターターの操作時、車両側はエンジンが掛かるにも関わらず、リモコンへのアンサーバックが行なわれない。	本品のリモコンは、エンジンスターターの操作から約30秒間のみ車両からのアンサーバック信号を待ち受けています。この間に何らかの原因によりアンサーバック信号を受信できなかった場合は、そのまま液晶表示を終了します。	P14
	車両側は正常に動作しているにも関わらずリモコンに Err-99 と表示される。	リモコンから車両側への通信は正常に行なわれたが、車両側からリモコンへのアンサーバック信号が何らかの原因により受信できなかった事が考えられます。	P15頁下の 参考
	リモコン操作時、液晶ディスプレイが表示されるまでに時間がかかる。	液晶の特性上、低温時の表示には多少時間がかかる場合があります。リモコン内部の温度が上昇すれば表示は元に戻ります。	–
	バックライトや液晶表示が暗くなったり不安定な状態になる。	リモコンの電池が消耗していると思われます。 新しい電池に交換してください。 また、低温になる場所にリモコンを置いておくと、一時的に電池電圧が低下してリモコンの表示が薄くなる場合がありますが、常温になれば元に戻ります。	P51

	症　　状	解　　説	参照ページ
エンジンスターター・ターボタイマー機能について	エンジンスターターが作動しない	イグニッションがキーによってONになっていませんか？ イグニッションキーを抜いてください。	–
		メインユニットのヒューズが切れていませんか？ 配線を再確認してから新しいヒューズ（別売）に交換してください。	–
		ID登録が正しく行なわれていない可能性があります。 再度リモコンIDの登録を行なってください。	P50
		P/N検出データが消失していませんか？ 再度データを書き込んでください。	P48
		その他の原因の場合は「エンジンスターター機能が作動しない場合」を参照の上、確認作業を行なってください。	P52～P55
	ターボタイマーが作動しない	ターボタイマー機能の設定が正しく行なわれていますか？	P38
	エンジンスターター・ターボタイマーのアイドリング中、純正キーレスエントリーが作動しない	ほとんどの純正キーレスエントリー装着車は、車両の仕様上エンジン始動中に純正キーレスエントリーが作動しないようになっています。このような車両の場合、エンジンスターター機能およびターボタイマー機能によるアイドリング中は、本品のドアアンロック機能を使用するか、キーを使用してドアを開ける必要があります。	–

故障かな？ と思ったら

	症　　状	解　　説	参照ページ
セキュリティ機能について	セキュリティがONにできない	イグニッションがキーによってONになっていませんか？ イグニッションキーを抜いてください。	−
	セキュリティレベル、センサー感度の設定ができない	設定が行なえるのは、セキュリティがOFFの時かVALETモードの時だけです。	P27・P54
	車を叩いてもショックセンサーが反応しない	2段階ショックセンサーの感度調整が弱すぎる恐れがあります。 適切な感度になるように感度を強めてください。	P30
		アンテナユニットはしっかり固定されていますか？固定されていない場合は、車両内装部分にしっかりと取付けてください。	−
		セキュリティレベルの切替は適切ですか？ セキュリティレベルをNORMなどに切り替えてください。	P28・P29
		エンジンスターター機能およびターボタイマー機能によるアイドリング中は、誤作動を防ぐため衝撃センサーが反応しません。	P23
		イグニッションがONになっていませんか？ショックセンサーはイグニッションOFFの状態でしか作動しません。	P23
	2段階ショックセンサーが反応しない時がある	2段階ショックセンサーに連続して衝撃を加えた場合、1回反応してから約3.5秒間は次の警報を行なわないようになっていますが異常ではありません。	−
	ドアを開けてもサイレンが鳴らない	残光機能付きの車両の場合、セキュリティをONにしてからルームランプやキーリング照明などが消えてからでなければ、ドアセンサーが働きません（残光対応機能）。	−
		ドア開放や傾斜などに反応する撃退警報は、1回のセキュリティONにつき、最大7回（バックアップサイレン使用時は10回）までです。	−
	何も異常が無いのに警報が鳴る	2段階ショックセンサーの感度調整が強すぎる恐れがあります。 適切な感度になるように感度を弱めてください。	P30
		温度変化などにより車両の内外装パーツ（特に樹脂部品の勘合部）が膨張・収縮して2段階ショックセンサーが反応している可能性があります。	−
		アンテナユニットの取付状態（ユニット及びコードがしっかり固定されているか）を確認してください。正しく固定されていない場合は、正常なセンシングが行なえません。	−
		車上荒らし・車両窃盗犯がセキュリティを解除させる目的で、特に夜間、故意に車両に衝撃を与えて様子を伺う事例が報告されていますのでご注意ください。 ※ご自分で犯人を捕まえようとする行為は大変危険です。このような場合は、警察に相談されることを強くおすすめします。	−
		セキュリティON時に ボタンを長押しするとパニックアラーム機能が働き、強制的にサイレンが鳴りますのでご注意ください。	P24
	スターターカット機能が作動しない	出荷時の設定状態では、スターターカット機能の設定が行なわれていません。 スターターカット機能を設定してください。	P44

故障かな？ と思ったら

	症　　状	解　　説	参照ページ
その他の症状	通信距離が短い	リモコンの電池が消耗していませんか？ 新しい電池に交換してください。	P51
		リモコンと車の間に電波を遮断する障害物が多いことが考えられます。特に金属物質は電波を通しにくく、通信距離を著しく縮めますので使用の際はご注意ください。	–
		アンテナユニットをダッシュボード以外の場所（特にインダッシュ等）に取付けている場合は通信距離は短くなります。	–
		アンテナユニットの近くに金属があると通信距離が短くなる場合があります。ピラー等の金属部から5cm以上離して取付けてください。	–
	ドアロック機能が使用できない	ドアロック機能はドアロック適合車種のみ使用可能です。また、ドアロック機能を使用するには別途ドアロック配線が必要となりますのでご注意ください。	–
		ドアが開いているとドアロックモーターが作動しない車種がありますので、必ず全てのドアを閉めてからドアロックの操作を行なってください。	P16
	キーによるエンジン始動ができない	本品の「スターターカット機能」が働いていませんか？ ドアのアンロック操作を行なってスターターカット機能をOFFにしてから再度始動を試みてください。	P17・44
		車種別専用ハーネスが緩んでいたり、本品のメインユニットが接続されていない場合、キーによるエンジン始動ができなくなります。 接続が確実に行なわれているかどうか確認してください。	–
	ドアをアンロックすると車両の 純正ホーンが鳴る	純正のセキュリティアラームなどが装備されている車両の場合、純正リモコンドアロックでドアをロックした後、本品でドアアンロックを行なうと、純正セキュリティアラームが鳴る場合がありますが故障ではありません。 このような車両の場合、ロック操作とアンロック操作を同一のリモコンで行なう必要があります。	–
	1度のリモコン操作（セキュリティON・セキュリティOFFなど）で車両側が 2度反応する	本品は、リモコン操作（電波送信）を行った後に車両側アンテナユニットからのアンサーバック信号が受信できなかった場合、自動的に再送信を試みます。この場合、1度のリモコン操作で車両側が2度反応しますが異常ではありません。	–
	その他、動作が不安定な場合	車種別専用ハーネスのゆるみがないか、また、アースコードが確実なアースポイントに接続されているか確認してください。	–

memo

memo

仕　様

■仕　様

技術基準	特定小電力無線局テレコントロール用無線設備
使用周波数	429MHz帯（6チャンネル任意切替式）
通信方式	単信方式
送信出力	10mW
送信時間	40秒以内
送信休止時間	2秒以上

■リモコン

外形寸法	61.3x32.4x17.4(mm)※アンテナ部含まず
重量	約28g
使用電池	CR2025×2ヶ
電池寿命（常温時）	約1年（1日10回の送信を行なった場合）
作動温度範囲	0℃ ～ +60℃

■メインユニット

外形寸法	66x139x27(mm)（突起部除く）
重量	約175g
電源電圧	DC12V
消費電流	約15mA（待機時）（スリープモード付）
作動温度範囲	−20℃ ～ +85℃

■アンテナユニット

外形寸法	69.5x42.5x30.0(mm)
重量	約50g
コード長	約1.5m
作動温度範囲	−20℃ ～ +85℃

■8音色サイレン

外形寸法	61.2x61.2x38(mm)（プレート部を除く）
重量	約135g
コード長	約3.9m
最大音圧	約120dB
作動温度範囲	−20℃ ～ +85℃

保　証　書

保証規定

1.保証期間内（お買上げ日より3年間※リモコンは1年間）に、正常なご使用状態において、万一故障した場合には無料で修理いたします。
2.次のような場合には、保証期間内でも有料修理になります。
（イ）本保証書のご提示がない場合
（ロ）使用上の誤り、不当な修理や改造による故障及び損傷
（ハ）お買上げ後の輸送、移動、落下等による故障及び損傷
（ニ）火災、地震、水害、異常電圧、公害、指定外の使用電源（電圧・周波数）及びその他天災、地変などによる故障及び損傷
（ホ）本保証書の所定事項の未記入、あるいは字句を書き換えられた場合。但し、お買上げ日、販売店名はレシートで可
（ヘ）外観部分の損傷
（ト）電池寿命
3.不正改造車に取付けされた場合は保証対象外です。
4.製品・部品・付属品を紛失された場合は保証対象外です。
5.修理は、お買上げの販売店に必ず本保証書をご提示の上、ご依頼ください。
6.本保証書は、再発行いたしませんので、大切に保管してください。
7.本保証書は、日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only for service in Japan.

CARMATE 株式会社カーメイト
株式会社カーメイト
本社 /〒171-0051 東京都豊島区長崎5-33-11　TEL.03-5926-1216（代表）

アフターサービスについて

商品についての問い合わせ・補修パーツのご注文は、下記サービスセンターへ。

カーメイトサービスセンター　セキュリティ・スターター専用ダイヤル

Tel: 03-5926-1216（代表） Fax: 03-5926-1218

パソコンから：http://www.carmate.co.jp/toi/
携帯電話から：http://www.carmate.co.jp/
携帯メールから：mobile@carmate.co.jp

株式会社カーメイト　http://www.carmate.co.jp/
本社　〒171-0051 東京都豊島区長崎5-33-11